



漕 魂

34号



平成24年度

長崎大学医学部漕艇部



漕 魂

34号

平成24年度
長崎大学医学部漕艇部



卷 頭 言

我等が六歳を契る

絢爛の其の宴は実に過ぎ易し

然れども見ずや先達の嚆矢、

古りて猶燦然として輝き

我等が矜持、久遠に逸せざるを

友達よ、然に明日の運命を嘆かんよりは、

此の虞美露々丘に集いて、

去りては再び歸らざる

若き日の感激を謳わん。

漕魂の歌

作詞・今里雅之

作曲・岩谷 怜

一. 街を離れ ひたすらに

子々川の海へ 滑り出す

心地良い風 潮の薫り

キャッチロー キャッチロー

にじんだ汗が 流れだす

パドル行こう さあ行こう

二. 水を切り 走る 崎陽の

シュルルと放つ 快音は

朝もやの海に 似合っている

キャッチロー キャッチロー

心待つのは 安らぎの

オールメン イージーオール

オールメン イージーオール

三. スタート前の 緊張が

競り合う 気概と足蹴りに

ピッチを上げる コックスの声

キャッチロー キャッチロー

燃え尽きんと 漕ぎ続け

ああ喜びの トップゴール

琵琶湖周航の歌

作詞・作曲・小口太郎

我は海の子 さすらいの

旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざ波の

滋賀の都よ いざさらば

松が緑に 砂白き

雄松が里の 処女子は

赤い椿の 森陰に

はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば

赤い泊火 懐かしみ

行方定めぬ 波枕

今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮

古い伝えの 竹生島

仏の御手に 抱かれて

眠れ処女子 安らげく

目次

〈ご寄稿〉

丹羽正美先生退官のメッセージ	4
顧問教員退任のご挨拶	27
OB会長就任のご挨拶	28
追悼文 富海五郎君を悼む	30

〈活動報告〉

平成二十四年度までを振り返り(澁谷コーチ)	31
昨年度主将挨拶(竹田)	34
新主将挨拶(川口)	35
新入生紹介	36
平成二十四年度試合結果報告	37
平成二十四年度コックス記	45
部員雑感	61
平成二十四年度収支報告	70

〈OB会〉

新役員紹介	71
長崎大学医学部漕艇部OB会会則	72
長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿	73
長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿	83
長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿	84
長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿	85

〈ホームページ紹介、OBメーリングリストご案内〉

編集後記	87
------	----



Aクルー



Bクルー



谷保尾崎クルー



インカレ付フォア



退官記念乗艇



退官記念乗艇





記念乗艇にて 1



記念乗艇にて 2



丹羽先生と同期の四人



精霊流しにて



学生時代の丹羽先生



丹羽先生女装

丹羽先生

栢本恵一良

「何に、惹きつけられたのか？」

六十六年に入学以来、毎日飲みに行っていたボクが、医学部の学生が多い「ロンドン」っていうスタンドバーで、丹羽にあつて以来離れられなくなったのは、何だったのか？

ボクが、「ああー」って声を出したり、顔を横に向けただけでも、車の運転をしながらでも直ぐに脇見をしてしまう好奇心というか、あの「助平心」に惹きつけられていたのかもと思います。（本人は、美人がおつたのかと思うらしい。）

その後、何を云われても、頼まれても断れないボクがそこにいました。

唯一回だけ、学生運動の中で「学長監禁」の時に機動隊に排除される前日に逃げることも出来たのに一兵卒のボク（と先輩の荻野さん）は、逃げることを選択せず、逃がすべき丹羽を巻き込んでしまった。逆らつたていうか、今でもコレがなかったら、逮捕はなかったのではって思っています。

何かはわからないが、一生懸命に頑張つておつたなら、何かをひっくりかえせるように感じる。その言葉が、「わ

っぱりまつせ！デグリゴン？」です。

コレは、田川泰くんが「長大祭」の医学部実行委員長のときの、医学部が提案した「スローガン」ですが、その年の「祭り」の「スローガン」にもなりました。

（もう、長大祭は行われてはいないのつかない？）

ボクの生き様は、この時期に固まり、その後は変化無しで、「狂った化石」って、ある若者に云われました。

丹羽正美くん、そして田川泰くん、「狂った化石」でも良いではありませんか。何か出来ることを、もうちよつと頑張つてみようではありませんか。

「わりっぱりまつせ！デグリゴン？」

子々川の夜間の練習で、初めて夜光虫の中を漕いだときの感動は、忘れられませんなあー。

支離滅裂。

丹羽先生

桜井一枝（旧姓 光藤）

丹羽さんといえば三田高校、聡明な頭脳、おまけに入試前日に見た数学の問題がほとんどそのまま出た、うらやましい人でした。

私はどういう御縁かボート部のコックスに採用されたのですが、いつぞや隣のレーンにゴールしてしまった不名誉

な過去を持っていきます。正調からバウまでの四人の方々は本当に申し訳なく思っています。この場を借りて陳謝します。

丹羽さんのボート部に対する熱い愛情は私なりに感じてはいましたが、チャランポランな部員で役には立たなかったことをお詫びします。でも後輩が次第に立派な成績を出し、応援のしがいがあります。丹羽さんの熱意が受け継がれているでしょう。これからもボート部を支えて下さい。私も微力ながら協力します。

丹羽先生

田川 泰

この度は、御退任お疲れ様でした。医局ならびに漕艇部の重責もふくめ、まずは一区切り、しきり直しになりますかね？

かつて、あの泥舟漕法で西医体に参加していた漕艇愛好会が、医学部漕艇部として全国レベルで活動するまでに成長したのも丹羽先生の陰ながらの御努力の賜物ですね。

昔を思い返すに、漕艇部を創設する話は仲間と練りに練って始めたのではなく、「皆で何か出来ればいいね!!」だけいつの間にか漕艇部設立の趣意書片手にお金集めを、丹羽先生を中心に朝から夕方まで歩いていた記憶が鮮明にあり

ます。

この漕艇部のクラブ創立当初は、艇庫に遊びに来た学生君達は中学・抗稿時代のガリ勉君達ばかりであった。私は丹羽、松本、冬野、朝戸先生等とよりしたしくなり、彼らといると心が和んできたものです。このころの漕艇部は北海道有限会社福祉「べてるの家」のような生活共同体のようなケアの雰囲気があり先輩、後輩のいない未熟な漕艇部活動はすべてを包容してくれたようでした。この時の友人関係の繋がりが苦痛の八年間という長い学生生活を丹羽先生と送れ、過酷な大学医局生活を終えることができたと感じています。退任は節目、メタボの丹羽先生はまだまだこれから研究・企業経営ならびに後輩の指導と頑張られるでしょう。

丹羽先生

昭和五〇年卒 中野 文耕

部活その他で大変お世話になりました。今後の益々の御活躍を期待申し上げます。

丹羽先生

昭和五二年卒 田中 精一

長崎大学医学部ポーター部を再興されましたこと、医学生
の街中での勉強会（村上ゼミナール）を始められましたこと、
と、医学部ポーター部OB会を組織化されましたこと、医学
部ポーター部顧問教官としてご尽力されましたこと等々、長
い間本当にご苦労さまでした。そして有難うございました。
引き続き、OB会では宜しくお願い致します。

丹羽先生

出口 正巳

お世話になりました
退官（退任）では、よく「つつがなく…」と挨拶をされ
るのですが、はたしておめでたいことなのでしょう？ま
だまだお元気だし、もつと仕事したいという気持ちもある
はずですが、でも次の教授が待っておられるわけで仕方の
ないことなのでしょう。

およそ四〇年も前のことになりましたが、私は昭和四七年
に長崎大学に入学し、下宿にいた経済学部先輩に誘われ
て本学ポーター部で鍛われていました。部室は水産学部にあ

り、まさに肉体の鍛錬を、そして声をはりあげて根性でゴ
ールまで漕ぐというまさに体育会系クラブでした。

その後、丹羽先生らが医学部ポーター部を復興されそちら
に移りましたが、こちらは学生運動後にできた哲学者の集
まりのようなクラブでした。私は体力的には若さで勝って
いましたが、五歳くらい上の偉い先輩方になかなか紛れ込ん
だ子供という感じでした。丹羽先生、田川先生、朝戸先生、
田中先生、松本先生ほか、色々な方々が在籍されていたの
ですが、なかにはいつのまにかお顔を見なくなるというか
なり流動的なクラブで、私がお酒の飲み方を覚えたのもそ
の頃です。当時はまだ車を持つている学生は少なく、幌付
きのトラックを購入して、荷台に乗り込んで子々川まで通
っていました。かなり年季の入った車両でしたので故障も
ありましたが、朝戸先生が当たり前のように修理すると、
また元気を取り戻して働いてくれました。西医体前の夏合
宿では、乗艇練習の合間に長崎市内まで寄付集めに、先輩
医師を訪ねて回りました。その後井上先生たちが入学し、
その一年生だけのクルーが、オープンながら大阪・浜寺漕
艇場での西医体で入賞を果たしました。それからやっと運
動部の態をなしていき、今の長崎大学医学部漕艇部に至っ
たわけです。

医学については、丹羽先生に尋ねれば正解が出てきます
ので、学生時代から第二薬理の助教授時代まで、およそ
二〇年にわたりご教導いただき、博士号の指導もしていた

いただきました。助教授室と呼ぶには憚られるようなペントハウスで研究に明け暮れておられました。私も実験室、アイソトープセンターと病理の部屋を行ったり来たりして、基礎医学の片鱗を学ばせていただきました。

四〇年前を振り返ると、みんな二〇代の学生で懐かしい思い出がよみがえりますが、ご苦労のすえに再興された医学部漕艇部が今のような立派なものになったことは、医学での業績に勝るとも劣らない金字塔だろうと思います。

改めて、丹羽正美先生の退任をお祝い申し上げるとともに、漕艇部への貢献と私個人へのご指導に感謝申し上げます。

丹羽正美先生ありがとうございます

一九八〇年卒業 井上健一郎

私たちの同期七名がボート部に入部したのは一九七四年（昭和四九年）のことでした。この時丹羽先生は学部四年（今の六年）で現役でボートを漕ぎながらキャプテン（または主務）をされていました。この頃の丹羽先生から教えていただいたことが二つあります。

一つは医学に対する姿勢です。お持ちになる医学書は必ず洋書で後輩の私たちにもなるべく洋書を読むように勧められていました。さらに医学は自然科学なのだから知識が

なくては始まらない、まず覚えるべきことを覚えなさい、その上で次の段階の勉強をしなさいとよく諭されています。

もう一つは私たち後輩を大人として扱っていただいたことです。

私が入学してすぐの五月の連休のこと、九州山口医学生体育大会が予定されていました。私はそんな事も知らずに高校時代の先生に五島に石鯛釣りに連れて行ってもらう約束をしていました。新入生にとって最初の試合であり休むことなど考えられない事でした。恐る恐る「連休に釣りに行く約束をしているのですが」と言ったところ、ある先輩からは当然のことですが「何を言っている新入生は試合に来ないといかん」と言われました。その時丹羽先生が近くにおられて「いや、君らはもう大人なのだから約束はちゃんと守らなくてはいけないよ、試合には来なくてよいから釣りに行きなさい」と言っていたきました。幻しの石鯛釣りですから釣果はボーズでしたが、この時ほど大学生になったという実感を得たことはありませんでした。

丹羽先生はボート部の顧問教官になられて、どんなことがあっても慈父のごとく首尾一貫して学生を守ってくださいました。そしてOB達にはよく「ボート部を愛して下さい」と言っておられました。

今後も丹羽先生がますますお元気でボート部の象徴として活躍されることをお祈りいたします。

丹羽先生

水谷 明正

漕艇部は、これまで先生により支えていただきました。丹羽先生あつての漕艇部であつたと思います。退官後も漕艇部をよろしく願ひします。

丹羽先生、御退任おめでとうございます。

僕らの学年がボート部に入部した時より、先輩として暖かく見守っていただき感謝しています。小村君と村山君は天国へ旅立ってしまったが丹羽先生や田川先生達先輩と過ごした学生時代は人生の貴重な一ページだったと思います。ボート部の顧問教官として長く勤めていただき、またOB会のお世話もしていただきありがとうございます。今後とも健康に留意され、僕ら後輩をご指導いただければと存じます。

丹羽先生

南長崎クリニック 難波 裕幸

丹羽先生

長年の教授職、ご苦労さまでした。

このたび退官となられ、また新たな人生の出発を迎えられることになりました。

まずはゆつくりと家族で過ごされてから新たなチャレンジを始めてはいかがでしょう。

「振り向けばそこにはいつも

丹羽さんがいた」

昭和五七卒 山近 史郎

私は一九七六（昭和五一年）年長大に入学し、春にボート部に入部したが、丹羽さん（敢えて「さん」付けします）は卒業二年目のOBであり、我々新入生（他に末永、北川、潮山、倉富君で通称、「多良の会」）新歓コンパの三次会でキャバレーに連れて行って頂きそこで初めてお会いした。この方が話に聞いたあの丹羽さんか、とOBを先輩に持つ嬉しさを初めて実感した。それからもう三七年も経つたのかと感慨深い、丹羽さんはいつもボート部を優しく見守ってくれた。薬理学の尾崎前教授が当時顧問であり、丹羽さんはずっと同教室におられたので、ボートの試合や遠征には可能な限り参加されたと思う。自分が一年生の琵琶湖から五年生の主将当時の米子市の西医体など丹羽さんが同行して下さった。主将での西医体は惜しくも決勝進出を逃したが、丹羽さんから「もう一年主将をやらぬか？」と言つて下さった時は、主将で経験したそれなりの苦勞（苦

労という程ではないが)がすつと消え去り、やってきて良かったとほのぼのとした達成感を自分なりに感じたものだった。薬理の丹羽さんの部屋で国家試験の勉強をさせて頂き、入局の際に外科にするか内科にするか悩んだりして、丹羽さんがバイト先の日浦病院まで相談に行った事もあった。丹羽さんも循環器内科を考えていたと聞き、第三内科への入局を決断した一助になったと思う。米国へ埼玉留学から帰国して長崎に戻った頃は薬理学教室の変遷時期だったが、ポト部の活動やその後顧問になられた丹羽さんと部との関わりはいつもと変わっていなかったのが嬉しかった。久しぶりに新歓コンパに参加したが、ある事件がきっかけで丹羽さんから自粛指令があり、現役部員はみな丸狩りとなりそこに酒はなかった。時には厳しく指導した丹羽さんの一面を感じ、腕白でも素直な部員達に親しみを感じた。その腕白部員たちがその秋に子々川の合宿所でOB合宿を企画してくれたのには良い思い出になっており大変感謝している。その後西医体で二回三回と優勝したりしてポト部は強くなり、毎年数人以上入部するなど強くて魅力ある部になった事がとても誇らしい。丹羽さんがいてくれたからこそここまで立派な部に発展したものと感謝の気持ちで一杯である。振り向けばそこにいつもいた丹羽さんがもういなくなると思うと本当に寂しい。大学入学から三七年経った現在まで公私ともにお世話になった大先輩で、長兄の様に慕った存在である。奥様にも部員時代から自宅に

お邪魔したりして大変お世話になり、今でもお会いすると昔と変わらぬ優しさである。丹羽さんにはこれからも腕白坊主達を優しく見守って頂き、時には我々に叱咤激励を切にお願ひする次第です。そしてこれからも奥様を大事になさって下さい。

丹羽さん、長い間本当に有難うございました。これからも公私ともども変わらぬお付き合いどうぞ宜しく申し上げます。

丹羽正美先生、長い間御苦勞様でした

昭和五八年卒 岡田 代吉

私は、昭和五八年卒業で松尾圭一君、今里雅之君と同じ大村高校出身三人組の一人です。現役時代はBクルーであり強くなくて準決勝に進む事が一つの目標でしたが殆んどは敗者復活戦でも敗れておりました。しかし学二の時、西医体の準々決勝で九五〇m付近で相手に追いつき、ゴール直前で競り勝ち、準決勝に進出し漕艇乗りの醍醐味を味わう事も出来ました。卒業後の殆んど県外で過ごしておりますが、平成九年に北九州で開業し、一度、九州朝日レガッタ遠征中の現役部員達と会食する機会があり、体格の良さ、成績の良さに驚き優勝を狙える様なクラブに成長したものだと感じました。また、消火器まき散らし事件(?)

で危く廃部になるところを丹羽先生の御尽力でどうにか救われた事も部誌を読んで知りました。自分も卒後三〇年になります、学生時代に縦く横と拡がる人間関係を築く事が出来たのも丹羽先生方、先輩が漕艇部を再建されたおかげです。今後も体調には十分に注意されて我々後輩の指導を宜しく願います。

元第一薬理・永山より

永山 雄二

丹羽先生との一番の思い出は、やはり第一薬理に助手としてとってもらって、薬理で過ごした九年間でしょう。当時私は第一内科にいましたが、基礎に行きたい私と、基礎に行かせたくない当時のN教授でいろいろ確執がありました。丹羽先生にはいろいろと相談に乗っていただき、最終的には丹羽先生と当時の第二薬理教授の谷山先生にN教授にお願ひに行っていたら、無事基礎へ移ることができました。

しかし当時の第一薬理は、元教授のUさんが頻繁に来ていて、助教授の野中さんと教室の3/4くらいを占拠していました。二人はできていたのもっぱらの噂でしたが、どうだったんでしょう。今では真偽のほどは分かりませんが、犬も四階で飼育していました。ほとんどは実験での使用が

終わって、ただ天寿を全うさせるために飼っているという信じられない状況でした。これらの敵に対して味方は丹羽先生の他、助教授・姫野先生、私、大学院生・田中邦彦君、犬の世話をしていた井上さんという女性もどちらかというところら側でした。国試浪人で薬理で勉強していた三嶋君ともう一人(名前忘れた)も大きな戦力でした。永山・田中・三嶋らによる恫喝と、一方で姫野先生による懐柔作戦が奏を功してか、徐々に上野さんを追い出し、犬を動物実験施設へ移し、ついには野中さんにはお辞めいただき、二年ほどで第一薬理の完全制覇となりました。今考えれば、いい思い出です。

私の研究者としてのほんとの出発点が薬理です。薬理にいても好きな研究をさせてもらって、ありがたい限りでした。現在は縁あって原研に移り、施設長を仰せつかって、自ら実験をすることはほとんどなくなりました。ほとんど雑用もなく、夜も週末も実験三昧だった薬理の頃が懐かしいです。丹羽先生有難うございました。長い間ご苦勞様でした。

丹羽先生

日高 真

ポート部イコール丹羽さんという感じでした。

私が教養課程で留年した時には尾崎教授・丹羽助教授の第二薬理学教室で色々と面倒をみて頂き学部へ進学する事ができました。本当にありがとうございます。

丹羽先生

中山 大介

とにかくボート部は素晴らしい良き師、良き友にも恵まれました。

ありがとうございます。丹羽先生！

丹羽先生から学んだこと

九州大学耳鼻咽喉科・

頭頸部外科 准教授 中島 寅彦

丹羽先生、ご定年おめでとうございます。

私と先生が初めてお会いしたのは医学部の教養一年の時でした。ボート部の創設に関わった偉い先生でありながら、宴会での新入生の私たちの下品なくし芸にも非常に喜んでおられ、親しみやすい先生であるという第一印象でした。その後私がキャプテンをしていた学部三年のころから時々第二薬理の研究室に出向くことも多くなり、尾崎教授と

もに親しくさせてもらいました。医学部から病院に降りてゆく途中のすし屋（名前は忘れてしまいました…現在もある？）によく連れて行っていただいたことを記憶しています。ボートの話はもちろんですが、何事にも（勉強にも恋愛にも遊びにも）一生懸命になる態度の大切さを学ばせていただきました。先生には人を惹きつける雰囲気や術術があり、当時のボート部にはこの丹羽イズムが結構浸透していたと思います。

卒業後、私は九州大学に入局し現在も大学で教官をしています。臨床にも研究にも、そして教育にもこの丹羽イズム精神を続けているつもりです。大学病院所属の重要な仕事の一つに研修医の勧誘があります。近年耳鼻咽喉科入局者は減少しており各医局とも新人の確保に苦労していますがボート部時代に学んだ精神で学生や初期研修医を勧誘しており、私が医局長時代には最大八名の初期研修医を九大耳鼻科に入局させることができました。決して一人では進むことができないボートという競技に



1987年 丹羽先生とボート部同期の4人
（上記写真 中島寅彦先生より）

学生時代に打ち込んでいたからこそ、現在の自分があると常日頃思っています。

先生、長い間お疲れ様でした。最近はお会いする機会が少なくなってしまうましたが今後ともよろしくお願いいたします。

丹羽先生

寺尾 保信

丹羽先生、長い間御苦勞様でした。学生時代は大変お世話になりました。私も年を取ったせいかわいさかポト部時代を思い出す時間が増えました。そんな心の拠り所となるポト部を長年に渡り支えて頂き本当にありがとうございます。

丹羽先生の思い出

平成二年卒

熱帯医学研究所・国際保健学分野 山本 太郎

今、帝国ホテルの中二階にある「光」の間で、「ヘルシンキ宣言」の改定に関する世界医師会の専門家会議に出席しながら、少し議論をさぼって時間を見つけて本文を書いています。そしてこれは以降の本文にまったく関係のない

ことだが、今日は三月一日で、私の四九歳の誕生日です。考えてみれば、あれからでも、三〇年が過ぎているんだとふと、この文章を書きながら思ったのです。

ポト部の部員が、おそらくそうであったように、私が丹羽先生に会ったのは、大学に入学したその年でした。九山が終わった後の新歓コンパ（新入生歓迎コンパ）が最初の機会だったと思います。

その頃、未だ三〇代半ばの先生は、留学を間もなくに控える少壮の研究者で、「あの人が丹羽先生と行って、ポト部を創った人なんだ」と、一々二年上の先輩が教えてくれたことを覚えています。当時先生のいるテーブルには、宮城先生（外科）、高久先生（眼科）、村上先生（内科）、尾崎先生（薬理）などの諸先生方がいらして、私たちの座っている席からははるかに遠く見えるだけでした。

次に先生にお会いしたのは、夏合宿の最中で、先生がメリーランドにある米国衛生研究所（NIH）に留学される時で、その出発を長崎空港へ見送りに行ったときでした。子々川の合宿所から、ナックル二艇に分乗し、今里さん（今里さんは、当時六年生で、夏の間、国試の勉強をするといつて合宿所で寝起きしていた）、日高さんの指揮の下、空港までポトを漕いで行ったことを覚えています。日焼けし、 그리스 に汚れたウェアを着た一〇数人の若者の集団は、空港でも異様な集団で、唯一、「丹羽先生、留学おめでとうございます」と書かれた垂れ幕を持っていたことだけが、

怪しさからの救いだっただかもしれませんでした。先生の横には、奥様と小学校低学年の長男正太郎と、まだお母さんに抱かれた二男の正二郎がいました。その正二郎も今や二児のパパだと聞いています。

余談になるが、後に、この空港では、先生に二回見送っていただくことになりました。一度は、長崎の大学院を卒業して東京へ行くとき。もう一度は、アフリカへ赴任する時でした。

私は、学生生活を通常より一年多く七年間送りました。学生時代の最後は、先生の薬理学の大学院生として勉強しようとして決めていました。その頃までには、先生の優しさの虜になっていたのです。この頃には、お宅にもお邪魔し、奥様、長男正太郎、二男正二郎にも家族のように接していただきました。当時、多くの大学院生、研究生が薬理学研究室に出入りしていましたが、みんな先生と奥様にはお世話になっていました。

一方、先生からはしかしこれからは分子生物学の知識があると、分子生物学的手法を使って研究を行っていた細菌学教室（宮本教授）の片峰先生（現学長）を紹介され、その下で大学院生活を送ることになりました。先生と片峰先生は、お父様同士が同級生だったとかで、先生が一八歳の時、東京の高校（三田高校）から長崎へ夜行列車で来たときには、まず、お父様の方の片峰先生を訪ねたと後に聞いたことがあります。その頃高校生で鹿児島島のラサールに通

っていたのが、今の片峰先生です。夏休みなど、帰省した片峰先生が「母さん、牛乳」といって、冷蔵庫から出した牛乳を飲んでる姿を大学生だった先生はお酒をいただきながら見ていたといいます。そんな姿を知られている片峰先生が先生に頭が上がらないと言うのは、当然かもしれません。

大学院は、細菌学教室に進み、四年間片峰先生の指導を受けましたが、その前に市立札幌病院の救急部でレジデンスをしました。それも、先生の紹介で、先生の留学時代のお知り合いの方がその病院にいたおかげでした。その病院の救急部は今年、創部三〇年を迎えます。当時救急部で私のオーベンだった先生は、今、北海道大学で救急部の教授をしていて、今も時々、一緒に酒を飲みます。

細菌学教室の大学院生時代は徳洲会病院へ当直に通いました。そこは、先生の学生時代の仲間たちが集まって作った病院で、もちろん先生の紹介でした。このとき知り合った今井澄先生（前参議院議員）とは、その後、ハイチで何度かお会いすることになりました。

四年間の大学院生活を終えた後は、東京で国際保健学をもう一度大学院生として学ぶことにしました。先生からは「一緒に研究しないか」と誘われたのですが、ただ、そのときには、三〇歳にして、初めて、自分の進みたい道のようなものが見えてきた時期でした。本当に考えた末に、この話はお断りすることになりました。初めて自分の道を自

分で決めたときでした。ただ、なんて不肖の弟子であろうことには違いありません。そして、東京でもう一度学生として勉強を始めたのです。

その頃、先生の研究室へ最初の大学院生として入ったのが、現田中准教授で、田中の後姿にそつと手を合わせて「ありがとう」とつぶやいたことを覚えています。

その後は、私自身、東京、アフリカ、京都、ボストン、ハイチ、ニューヨーク、東京と住まいを変えるような生活を送り、約一〇年間は日常的に先生と接することはなくなりました。長崎を訪問する際にはいつも先生を訪ねていました。

六年前に長崎に帰ってきました。そして、再び、先生と日常的に接するようになりましたが、先生は、以前からの先生でした。少しだけ、体が大きくなっていたことを除けば、一八歳で長崎に来て、途中、二年半ほどの米国への留学を除いて、四〇数年間ずっと、坂本のキャンパスに通い続けた先生、お疲れ様でした。

(了)

丹羽先生

長崎大学病院消化器内科 病院准教授 市川 辰樹

丹羽先生、長崎大学のポート部を支えつづけて頂きありがとうございます

そして、お疲れさまでした

これから、お体には十分気をつけられて益々ご活躍ください。

「懺悔」

平成三年卒 田中 邦彦

私は今、長崎大学医学ポート部OB会の一会員として、また長崎大学医学部薬理学教室の教室員として、丹羽正美教授の退任記念事業を担当させていただきながらこれを書いています。このメッセージの依頼をみたとき、最初に浮かんだ言葉が「懺悔」でした。ポート部OBで、およそ丹羽先生にお世話になっていない者などひとりもないでしょう。では、その受けた恩を十分に返せた者は、これまでにいったい何人いるでしょうか。おそらく私は、ポート部OBの中で、社会人になってから最も丹羽先生のお世話になった者のひとりです。そして、丹羽先生に受けた恩を返さなかつた最たる者であることも事実でしょう。思えば一九九五年四月、私は、丹羽先生が教授になられた薬理学第一教室の最初の大学院生となりました。当時、「丹羽先生が教授になられて、ポート部から誰も大学院生がいないのはおかしい」と私が言っていたのを覚えておられる方もいらっしゃるでしょう。結局言い出した私が大学院生

となり、余談ですがそれ以後、ポート部から当教室の大学院生となったものは誰もいません。私が初めて最後でした。自由闊達な雰囲気の中で研究をさせていただき、くさるほど酒を吞ませていただき、大学院の途中でありながら留学もさせていただきました。その後、外科を辞した私を拾っていただき、それ以来私は、この教室の教室員として丹羽先生につかえてきました。丹羽先生のご専門である神経薬理学の教室でありながら、癌研究がしたいと駄々をこね結局容認していただきました。当教室から設立されたベンチャー企業についても、距離を置いてほとんどお手伝いしませんでした。講師、准教授と引き上げていただいたあとも、丹羽先生が思い描かれた教室像、教育、研究の実現を十分サポートすることができませんでした。これほどの恩知らずが、他にどこにいるでしょうか。

この世には、大きく二種類の人間がいると言われます。男と女、老人と若者、賢者と愚者、理想主義者と現実主義者、勤勉な者と怠惰な者、中間だという人もいます。ですが、たいていはどちらかに分類されると思われれます。私事ですが、私が結婚した際のパーティーの祝辞で、丹羽先生は私のことを「義の人」であると表現なさいました。義理堅い男であるという意味の反面、理屈ばかり振りかざして融通の利かない、頭の固い男であるとお叱りの意味もきつとあったと思います。私の知る丹羽先生は、「情の人」です。特に、若い者を大事にしよう、引き上げようという

お気持ちには、おそらくごなたにも引けを取らないでしょう。強固な信条と信念をお持ちでありながら、最後の最後では決して若者を見捨てない、必ずその人それぞれにとっての道を示し、手を差し伸べてください。思い当たる方も多いと思います。そのお気持ちを、ポート部復興以来も強く持ち続けられたからこそ、その気持ちはいつしかクラブの理念となり、そのおかげで長崎大学医学ポート部は、学生が思う存分ポートを漕ぎ、OBが支える、まとまりのある強力な組織でありえたのだと思います。

「懺悔」と書きながら、丹羽先生がポート部の部長を退任される、薬理学教室を退任されるという現実を、自分の中でうまく整理できない私がいいます。私のちっぽけな「義」は、丹羽先生の大きな「情」の中でこそかろうじて成り立っていたものであり、お釈迦様の手の上の孫悟空のようなものでした。孫悟空は、最後は懺悔仏になったそうです。私は、丹羽先生に受けた大きな御恩をお返しすることができませんでしたし、仏にもなれそうにありませんが、可能であれば、今後のポート部と薬理学教室を丹羽先生のような大きな「情」で見守っていきたいと思います。それが私なりの丹羽先生への恩返しになると思うからです。

丹羽先生、長い間お疲れ様でした。言葉に尽くせないほど、本当にお世話になりました。最後まで迷惑かけ通しましたが、不肖の弟子をどうかこれで勘弁してくださいませ。

丹羽正美 教授退任記念メッセージ

平成四年卒 黒木 保

丹羽先生退任おめでとうございませう。

本当に長い間、我々ボート部の兄貴として父親としていつも温かく見守っていただきました。部員が何かしてかしたとなれば、まず、丹羽先生に泣きつくといった感じであり、どれだけ迷惑をかけたことかー。

教授職には退任がありますが、ボート部には退任はありません。是非、これからも現役そしてOBの我々をよろしく願いたいませう。

丹羽先生

長崎大学病院 麻酔科 講師

趙 成三 Cho Sungsam

丹羽先生、ご退官おめでとうございませう。私は学生の頃だけでなく、卒業後も研究のことで色々とお世話をしていただき、本当にありがとうございます。丹羽先生は、学生だけでなく我々OBに対してもいつも色々なお話やアドバイスをしていただける非常に頼りがいのある先生で、よく学生達と飲みながら色々なお話をしていたことを

覚えていませう。今後も我々のよき先輩として、ご指導をよろしく願います。

丹羽正美先生

ボート部平成四年卒
井上病院形成外科麻酔科 福井 雅士

ご退官おめでとうございませう。長年に渡り、薬理学教室とボート部を先頭に立って牽引して来られ、長崎大学の研究と教育に多大の貢献をされて来られましたことに本当に心から感謝申し上げます。

先生が大学を去られるのは本当に不思議で寂しい気がしてなりません、時の移ろいの前には我々の感じている喪失感もまた一つの感傷に過ぎないのかもしれないませう。

先生、これまで本当にありがとうございます。これから末永くお元気で過ごさなれませう、これまで同様我々をご指導頂きますよう願います。

先生、本当にお疲れ様でした。

丹羽先生

長崎大学腫瘍外科(第一外科) 竹下 浩明

御退官誠におめでとうございます。

学生時代、キャプテンではありながら部の統括がなかなかうまくゆかず(特に夜間の件に関して)、教授室にお呼びいただきお叱りを受けましたが、穏やかに諭されたのは今でも記憶に残っております(灰皿に盛ったコーヒーの出し殻に針山のように刺さった煙草の吸い殻が印象的でした)。穏やかな言葉であるからこそ心に響くものがあって、部に貢献しようという気概を新たにしておりました。

医学部卒業後、第一外科に進み、今では卒業二十周年を迎えようとしております。多忙なためポート部には顔を出せなくなっておりますが、陰ながら長崎大学医学部ポート部を支えてゆきたいと感じております。

今後もし引き続き変わらぬご指導の程お願い申し上げます。先生の益々のご活躍を祈念致しております。

丹羽先生

平成七年卒 藤本 武士

丹羽正美先生、この度は教授御退任 誠におめでとうござ

いたします。そしてお疲れさまでした。

私の学生時代(振り返れば、もう二〇年以上も前のことですが)、また丹羽先生が第二薬理に所属されていた時には、特に大変お世話になりました。当時は時間を持て余し、何をしていたのかわからなくなっていた私に、第二薬理に来て自分の実験の手伝いをするように言われ、過ごした時間は今でも昨日の事のように思い出されます。

お前の給料は払えないが代わりに飯をおごるからと、昼の学食以外にも夜になるとよく銀寿司に連れて行ってもらう。ごちそうにもなりました。店を出る頃には軽い千鳥足で、これから家に帰るからお前も来るかと言われ、ご自宅にも何度も招かれ、奥様の手料理も頂きました。朝になると「僕はどうやって自宅まで帰ってきたのか、覚えていない。そう、彼(私)が運転して帰ってきたんだよ」と妻の前で私は相槌をうつように求められ、前日の打ち合わせ通り「そうです」と返事をしておりました。奥様はよく「うちには三人男の子がいるけど、一番大きい男の子が一番手がかるのよ」と言われていたのを覚えています。先日も久しぶりに銀寿司の前を通りながら、その日の事を懐かしく思い出していました。

丹羽先生

関 徹

二薬理の頃の事、教授御就任の頃の事等、ついこの前のことのように思い出します。

丹羽先生が大学を引退されるのは淋しいですが、今後の新たな青春譜を楽しみにしております。

丹羽先生

武野 正義

私がボート部主将を務めていた時に教授就任され、お祝いの席で「おめでとうございます」と言った事を思い出します。あれから二〇年余りの時が経った事に驚きさえ感じます。

丹羽先生、新たな人生に「おめでとうございます」

丹羽先生

大石 正雄

在学中はお世話になりました。薬理の教授室で先生の胸

に怪しげなパッチを貼らされた素敵な思い出が、目を閉じれば今でも昨日のことのようにはんに浮かんで参ります。とてもユーモアに溢れた先生でした。退官されてもボート部を生暖かく見守ってやってください。

丹羽先生

山崎 励至

丹羽先生、ご退官おめでとうございます。

大変お世話になり感謝しております。学生の頃に薬理学教室で飲み会に参加させて頂いたことが、つい最近のことのように感じます。長きに渡り本当にお疲れ様でした。退官後も益々のご活躍とご健勝を祈念いたします。

丹羽先生

高橋 優二

ご退官のお祝いを申し上げます。

自分達の現役時代には、不祥事を起こしてしまい、先生には御迷惑をおかけし誠に申し訳ありませんでした。また、長い間、私たちをご指導頂きましてありがとうございます。ありがとうございました。

先生の今後のご活躍とご健勝をお祈り致します。

丹羽先生

平成十一年卒 谷川 治

丹羽先生、ご退官おめでとうございます。先日の初漕ぎで七年ぶりにお会いし、外見以外は全然お変わりないことに驚きました。

私も卒業して十年以上経ち、仕事や家庭と共にボート部に関わる事の難しさを感じています。その意味で、先生が学生時代にボート部を再興された事よりもその後四〇年近くにわたってボート部を支え続けられた事に改めて畏敬の念を覚えます。「ボートを漕ぐ」のは自己満足くらいにはなりますが、「ボート部を支える」のは自己満足にすらならない訳ですから。

世俗的には何の益もないボート部部长を引き受け続けられたその理由について私が忖度する立場にはありませんが、そもそもボート競技自体が「何の得にもならないことにこれだけの力を注いでいる」というアマチュアリズムやアナーキズムの表現形である点、非常に丹羽先生的とは感じます。

部長が丹羽先生でなかったらボート部が続いていたとしても現在に到る部の空気とは随分違っていただでしょうし、

もつと言えばボート部の空気というのはもともと丹羽先生の空気なのではないか？ もしかしたら私達は、代々受け継がれる丹羽先生の空気に染まって、馬鹿みたいにボートを漕いだりゲロを吐いたりチンポを出したりしているのかもしれない。

丹羽先生、大変ありがとうございます。

丹羽先生

平成十一年卒 牧野 淳

学生時代は大変お世話になりました。

我々漕艇部が今日まで輝かしい歴史を築き上げてこれたのも、先生の大きな存在があつたからと信じています。

学生時代、時間と体力を持って余しながら行き場を失った自分を拾ってくれたのは漕艇部、ここで培われた自信と向上心が今日も自分の活力になっています。

仲間と合宿をしながら頑張っていた日々は、医者になつてからは同僚と救命センターで当直を重ねる日々に変わりました。

そして、そんな自分の姿を共感してくれたのか漕艇部の後輩が同僚として働くことになったのはとてもうれしい瞬間でした。

また、練習を重ねながら何とか周りに一泡吹かせてやる

うとしていた気概は、医者になってからは臨床留学という形で結実しました。

今後は、丹羽先生をはじめ漕艇部の先輩・後輩から培ってきた素晴らしい精神を糧に日本の医療改善という方向で生かしていきたいと思っています。

丹羽先生、なかなか御挨拶に伺えなくてすみませんでしたが、長い間お疲れ様でした。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

丹羽先生

及川 将弘

丹羽先生、ご無沙汰しております。学生時代は大変お世話になりました。出来の悪いキャプテンで申し訳ありませんでした。いつまでもお元気でこれからもボート部の事を見守って頂ければ幸いです。

長い間、ありがとうございます。

丹羽正美先生の御退官に寄せて

森 創

丹羽先生、ご無沙汰しております。平成十三年度卒業の

森創（もりはじめ）です。

現在、①特定保健指導におけるヘルスプロモーション法の開発研究、②産業保健におけるメンタルヘルス関係の研究と産業医活動をしております。（小児科医としてスタートし、「家族をとりまく問題」「社会保障に関する問題」についてアプローチしたいという思いが日々大きくなり、平成十九年十二月、順天堂大学公衆衛生学教室を経て厚生労働省へ出向、平成二十年四月より現職に至ります。）

目の前に丹羽先生がいたら、眼鏡のつるを耳にかけて、「要するにだ、君は、いったい何をしているの?」とお尋ねになるだろうなあ、と想像しますが、お答えするなら、「生活者（社員）というクルーと共に船に乗るコックス（産業医）を勤めております。」とったところでしょうか。思えばボート部に入部のきっかけは、「コックスというマネジメントがメインのポジションがある。」という一言でした。（ただ、医療者として歩み出した後に、そちらの方向に進むとは思っておりませんでした。）

「天下り（りゅうねん）」やら、基礎棟に住んでいたころには薬理学教室のシャワー室を使用させていただいたり、今から考えると恐ろしいことをしていたなあと恐縮至極です。また、薬理学教室の「夜の講義」や会場を寿司屋に移しての「夜の講義」などでは、当方らの青い議論（特に地域医療など）に対しても真正面から受けていただきご教授いただいたいきありがとうございます。

創立メンバーでいらつしやる丹羽先生がご退官される
のことで、ボート部も新たな時代を迎えることになるかと
存じますが、OBの一人として伝統を支えてゆく所存です。
今後とも公私共々、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願
い致します。

丹羽先生

蓬萊 彰士

先生には言葉では表せないくらいお世話になりっぱなし
です。

長い間お疲れ様でした。

丹羽先生

平成十四年卒 高木 理博

長年にわたり顧問として長崎大学医学部ボート部を支え
ていただき誠にありがとうございます。懐深く現役部員
を見守っていたいただき、私自身もおかげで六年間ボート部を
続けることができたと感じしております。今後のご健康と
ご活躍をお祈り致します。

丹羽先生

平成十四年卒 渡邊 庸平

丹羽先生退官おめでとうございます。

ボート部時代はあまりお役に立てずすみませんでした。
今でも思い出すのは、私が新入生の時の新歓コンパでいき
なり「ボート部生なら外食ばかりせず栄養を考えた食事を
摂れ」と言われ何の事で怒られているのか分からず、こち
らも色々言い返した事でしょうか。OB総会の事務仕事の
失敗談、連絡不行き届きなど、謝る事ばかりです。あの頃
を今でも懐かしく思い出します。お疲れ様でした。

丹羽先生

平成十六年卒 豊田 啓介

御退官のお祝いを申し上げます。長年私達を御指導頂き
まして誠にありがとうございます。先生と初めてお話し
ましたのは十五年前のボート部新歓の席で、月日の流れの
早さをしみじみと感じています。その席で、「〇〇高校出身」
から始まる自己紹介に続き周りが「名門」と相槌を打つ恒
例の件に沿って私が自己紹介を行うと、すかさず「待て、
〇〇高校は名門ではないだろう。本当に名門かどうかを説

明せよ」と入部早々鋭いご指摘を受けたことを昨日のことのように思い出します。学生時代には、歴代先輩と同じくボートのみでなく勉強部屋でもお世話になりました。個人的な学生時代の印象深い事件として、ボートの大会先で同期のSが酔って行方不明になったことが挙げられます。その事を電話報告すると、「どこかで死んでいるかもしれないから、徹夜してでも絶対に探し出せ」と一晩中私が叱責を受けて徹夜で探し回ったことは今となっては良い思い出です。社会人となった後にも大学院でお世話になりましたが、時には厳しい実験の要求も受けました。一方で、学生時代の同期が放校の危機にある時に教授会で最後まで擁護された姿勢や、長男が生まれた際にお祝いの品とともに温かい言葉でつづられた手紙を頂いた心遣いには尊敬の念を抱きました。厳しさとともに持ち合わせる後輩を思いやる温かさこそ、数多くの学生、後輩に慕われてきた先生のお人柄であると思います。

最後になりましたが、先生のご活躍ご功績が薬理学教室およびボート部に受け継がれていくことを期待するとともに、先生の今後の御多幸をお祈り申し上げます。

丹羽教授ご退官

おめでとーいございます

平成十六年卒 吉武 記一

丹羽先生、ご退官まことにまことにおめでとうございます。平成十六年卒の吉武記一（よしたけのりかず）でございます。本来ならば直接お伺いしてお祝いを申し上げるべきところ、書中にて大変失礼致します。

平成六年九月に教授になられてから平成二五年三月にご退官されるまでの約二十年間、途中で辞めずに辞めさせられずに続けることがどれほど難しいことだったか、他の教授を拝見するたび痛切に感じます。私の知るだけでも、講座の不祥事（例…不正経理）、セクハラで起訴、癌で亡くなるといった理由で退官まで続けられなかった教授が何人もいらつしやいます。丹羽先生は、悪名高いボート部員による不祥事で足を引つ張られることが特に多かった（と思われる）にもかかわらず、退官の日を無事に迎えられ何よりでございます。

私事で大変恐縮ですが、本年一月に子宮体癌の末期と判明した実母の看病や生後五ヶ月になったばかりの長男の世話等で、先生の退官祝賀会にも参加できそうになく、残念でなりません。わずかではございますが、お祝いのしるしをお贈り致しますと共に、丹羽先生との思い出を回想させ

て頂けたらと思います。

○消火器事件

小生が入部させて頂いたのは平成十年四月ですが、当時、丹羽先生は教授に就任されて四年ほどの忙しい時期だったとお察し致します。入部直後はあまり関わりがなく、「丹羽先生は学生時代に学長を監禁して刑務所に服役していたらしい」とかの話を伝え聞くくらいで、恐いおっちゃんというイメージしかありませんでした。

しかし、入部二ヶ月後に起きたある事件をきっかけにそのイメージは一変します。略して「消火器事件」。六月の県漕打ち上げ後に、ボート部員達が基礎研究棟の一階で消火器を撒き散らかした上に、たまたま通りかかった某教授に暴言を吐いたのでした。この事件は医学部内でも大問題となりましたが、その際に丹羽先生は先頭に立って謝罪をして下さいました。学内からは、ボート部を廃部にしろとか、犯人を退学にしろとか、顧問の丹羽教授を辞めさせろとかいう声も上がりました。しかし丹羽先生のご尽力のおかげで廃部や退学の処分は免れ、その年の西医体出場停止及び、定期的な清掃活動を行うことで事態は収拾致しました。

○ボート部顧問教官

私自身、山口大学で教官を経験して初めて感じましたが、教授として昼夜を問わず土日もなく研究や講義・実習・ネーベン等の仕事をされる中で、部活動の顧問教官として後

輩の面倒などなかなか見られるものではありません。そんな忙しい日常の中でも丹羽先生は寿司屋へ連れて行ってくださったり、遠方で行われるボート部の試合へも応援にお越しくださいました。応援に来られたドクターは丹羽先生だけという試合もありました。学生からすると、普段は子々が練習場で孤独に艇を漕いでいる中、応援してくれる人なんておりませんので、試合の時に応援して下さい。そしてその方がドクターであり顧問の先生である。そのことにどれほど勇気づけられたか、計り知れません。

○大先輩の格言

丹羽先生は、小生が二年生の時ある食事の席で「俺には、お前たちボート部員を医者にする義務がある」とおっしゃいました。ちょうど練習がきつく、技術は上達せず、さらに先輩から叱られ続ける毎日に苦しみ、部活を辞めようかと悩んでいた頃でした。しかし、このお言葉を頂いた時に悩みがふつきれました。それほどまでに想ってください。大先輩が私にはいると、とても心強く思い、本当にボート部に入って良かったと改めて感じ、その後も辞めずに続けることができました。六年生の時には薬理の一室で国試の勉強をさせて頂き、運良く合格致しました。丹羽先生は小生をボート部に引き留めてくださり、医者にしてくださいました。

教授ご退官のお祝いとしては甚だふさわしくないような回想になってしまいましたが、心をこめてお祝いを申し上げます。

げます。私は卒業後、出身地の山口県に戻っておりますが、ずつとずつとずつとボート部を応援していきます。

丹羽先生

平成二三年卒 上木 智博

長年にわたり、ボート部を支えていただき、ありがとうございます。ございました。

長崎大学医学部ボート部卒というだけで、世代を超えて仲間になれる。

そんな素敵な部を作ってくれてありがとうございます。ボート部の一員であることは私の誇りです。

顧問教員退任のご挨拶

昭和五〇年卒 丹羽 正美

平成二五年三月末の長崎大学定年退職に伴い、同時に医学部ボート部顧問教員も退任いたしました。村上文也先生（当時、熱帯医学研究所内科科長、初代漕艇部OB会会長）、高久功先生（眼科学教室教授）を経て、平成元年四月に前任の尾崎正若先生（薬理学第二教室教授）より引継ぎ、以来二五年間、漕艇に伴う水難事故など大過なくボート部の学生君たちへの力添えが出来たことは、一重に皆様の御支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

担当教員を部長にしているところもありますが、長崎大学医学部ボート部では医学部の体育会系の課外活動クラブとして、あくまで学生自身が自主的かつ主体的にボート部を運営するという理念から、担当教員は単に顧問教員としてきた伝統がございます。「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。」（ポンペ先生の言葉）を建学の基本理念として、深い医学知識と豊かな創造性、高い倫理観を身につけた医師及び医学者を育成することを目標としている長崎大学医学部の学生としての学業とボート部員としてボート競技の鍛錬との両立

のための見守りと助言が、顧問教員の役割と心得て参りました。

医学部の学生として、課外活動にボート部を選択したことは、他者への献身的な自己犠牲、病める人へのいたわり満ちた医師、深い医学知識と豊かな創造性、高い倫理観を身につけた医師及び医学者になるという長崎大学医学部の教育目標を達成する謂わば文武両道の途を極めることになるというのが、私の長崎大学医学部ボート部の顧問教員としての立脚点でした。ボート競技の特殊性で、艇を早く進めるために、漕手や舵手として個々の能力の向上というスポーツ競技共通の必要条件に加えて、独自の獲得目標があります。すなわち、誰よりも一人力強くオールを漕いでも、全てのオールの均質性と調和（ハーモニー）がないと速く進まないという特殊性です。一体的な動きへの極限までの均質性とバランスの取れたハーモニーは、身体の動きだけでなく性格の違いを含めた他者との違いを見極めて、その違いを相互に認め合うことで最大公約数的な均質性の追求で得られるものです。ボートを早く漕ぐということは、自己では無い他者としての違いを認め、他者への畏敬の念があつて初めて得られる調和の取れた均質性（ハーモニー）で可能になるということになります。ですから、医学部の学生として課外活動にボート部でボートの鍛錬をすることが、そのまま文武両道の途を極めることになり、そのことが長崎大学医学部の建学の理念に基づき目標を達成するこ

とになるというのが私の顧問教員としての思いでした。しかし、時に単なる学業成績への警鐘など教育的介入が目立つことがあったかも知れませんが。後任の顧問教員である山本太郎先生と新たに分掌した監督の市川辰樹先生への助言としなければと思います。

末筆になりましたが、非力な私を事に当たって支えていただいたOB会の先生がたに厚く御礼申し上げます。OB会の先生がた、ボート部の学生諸君、皆々様の御活躍御多幸を祈念いたしております。

OB会長就任のご挨拶

昭和五〇年卒 丹羽 正美

平成二五年四月一日に長崎大学OB会会長に就任いたしました。初代の村上文也先生が鬼籍に入られた平成十八年(二〇〇六年)(四月二三日御逝去)以来、代行を務めてまいりましたが、この度、平成二四年度漕艇部OB会総会(平成二五年三月三〇日)での役員改選に当たり、選出ご指名をいただきました。微力ではございますが、村上文也先生の御遺志を奉じ、OB会の目的「漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体の練成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるもので

ある」(長崎大学医学部漕艇部OB会会則第三条)の達成のために、誠心誠意努めてまいります。

今年度より、OB会の役員体制を強化することになり、従来から空席であった副会長に田中精一先生(S52)、新たに幹事に長崎在住のOB会会員から、井上健一郎先生(S55)、総務 事務局担当)、山近史郎先生(S57、会計監査担当)、山本太郎先生(H2)、ボート部顧問教員(新任)、市川辰樹先生(H3、ボート部監督 新任)、田中邦彦先生(H3)、趙成三先生(H4)をお願いすることになりました。会計には、田浦康明先生(H16)が新任されました。

医学部ボート部では、丹羽の退任に伴い山本太郎先生(H2 長崎大学熱帯医学研究所教授)が顧問教員に新任されました。また、従来、顧問教員が兼任していたボート部監督を分掌し、市川辰樹先生(H3 長崎大学病院准教授)が監督に新任されました。

今年二五年度のOB会会員は、新会員四名を迎えて一五七名になります。別途会計報告をいたしますが、年々会計規模が膨らんでおります。新たな役員体制で、財務体質の安定化を最優先事項で取り組んで行きたいと存じております。

最近、判明したボート部の沿革について、OB会長就任の御挨拶の場をお借りしてご報告がございます。日本漕艇協会の調査で、私ども長崎大学医学部ボート部は、

一八八八年（明治二十一年）、長崎市西小島で「第五高等中学医学部」に改組された際、創られた端艇部が起源ということが判明しました。その年から数えて一二五年ということとで、去る一月十二日恒例の初漕会に合わせて、私の退任を記念して、ボート部の学生が企画した「創基一二五周年記念乗艇会」が行われました（写真）。第五高等中学医学部に端艇部が出来たことで、旧制長崎中学（現長崎東高・西高）、旧制長崎高等商業（現長崎大学経済学部）、旧制長崎師範学校（現長崎大学教育学部）、三菱造船所（現三菱重工業長崎造船所）などにも端艇部が作られ、長崎港で盛んにレガッタが行われたようです。時代が下って、大正、昭和初期には旧制長崎高等商業（現長崎大学経済学部）と長崎医科大学の対抗ボートレースが定期的に行われて長崎の名物行事になっていたようです。原爆で壊滅した後の戦後、昭和26年頃、故木谷郁博先生（S30、平成二年十一月二日御逝去）、石橋盟士（S30）、大須賀浩先生（S30）、清水武先生（S30年）、星野行弘先生（S30）らが一時、時津の艇庫（今の三菱電機の工場近く）に復活させましたが後続なく（木谷郁博「ラストヘビー」漕魂創刊号（昭和五一年）、石橋盟士「私の回想」漕魂十七号（一九九五年）、その後、現在のボート部に直接繋がる昭和四七年三月十五日の私どもの再建になります（山本太郎漕魂）。

新しいOB会の役員体制で、ますます私どもボート部が

健全に興隆するよう、長崎大学医学部ボート部を支援していく所存でございます。引き続きOB会の先生がたの倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます、新任の御挨拶申し上げます。



平成 25 年 1 月 12 日 長崎大学臨海研修所

富海五郎君を悼む

昭和五〇年卒 丹羽 正美

ボート部OBの富海五郎君（S50）が、平成二四年五月に逝去されました。愛媛県松山市の自宅で、もう長く肺に巣くった癌からの逃れられない死を見据えながら、ご家族に見守れ静かに息を引き取ったそうです。内剛外柔のあなたのコックスは、艇外で時に理不尽に不服従で我が儘だった僕たちを、ひとたび艇内で一瞬にして僕たちの心の乱れを鎮め、静寂と秩序、調和の取れた均質性をもたらしたのです。そして、半世紀も前の昭和四七年八月あの灼熱の夏、黙々と不思議に熱いとも言わず汗もかかずにコックスを努めていたあなたの誠実さに僕たちは報いることが出来ず予選最下位敗退で、僕たちの青春とともに初めての西医体が終わりました。精神科医として、心の病を見据えて戦った生涯でした。心から哀惜申し上げ、謹んで御冥福をお祈り致します。



昭和 47 年 8 月日本医科学学生体育大会漕艇部門 大分県夜明漕艇場

後列（立位左より）朝戸末男（S50）内田隆寿（S50）丹羽正美（S50）冬野誠三（S48）
故 富海五郎（S50）

前列（座位左より）田中精一（S50）峰雅宣（S49）田川泰（S50）

平成二十四年度までを振り返り

コーチ 澁谷 顕一

平成二十一年四月に藤田君からコーチ就任依頼の連絡をもらいました。藤田君や東君らは「西日本医科学生体育大会で優勝したい」と言っていました。当時、私は、失礼ながらも西日本医科学生体育大会という大会を知りませんでした。その大会に出ているチームで名前を知っているといえば、全日本大学選手権などに出場していた滋賀医科大学だけでした。それ以外の大学にボート部があることさえ知りませんでした。当時の最上級生らには「名前も知らない大会を目指したいと言われても、私にはイメージがつかない。その大会を目指すだけなら私は君たちのチームのコーチはしない。もし、将来、全日本大学選手権で表彰台に乗ることを目指すのであれば、コーチを引き受ける。」と伝えました。そして、現在に至っています。

当時は、ウォーミングアップに行くというのに、ジーパンを履いたまま、足にはスリッパ、という状態でした。艇の周りで物を投げあったりと、ボートを漕ぐ以前の教育をしなければならぬと強く感じました。艇庫は弱いチーム



を象徴するかのようになつてグチャグチャで、何がどこにあるのかわからないような状態でした。選手は勝手に部の物を持ち帰り、紛失し、練習の当日の明け方までアルコールを飲み練習を休むという状態でした。漕がせてみても、艇の進みに興味が無く、ただ闇雲に、前へ出て、オールを水に入れて、後ろへ動くというボート競技とは思えない漕ぎっぷりでした。世界で活躍する選手に言わせると、オールをどう動かすかばかりを考えている「オール競技の選手」でした。長年、指導者がいなかったのですから仕方ありません。その有様に、強くカルチャーショックを受けましたが、叱つてばかりいても仕方ないと思ひました。戸田という新しい世界を見せれば、今の状態を脱するのはないかと期待し、半ば無理矢理、全日本大学選手権に出場してもらいました。結果は、予選のスタート直後から最下位に沈み、惨憺たるものでした。しかし、それは十分に想定内の結果でした。ただ、彼らが全日本大学選手権へ出場したことにより、各大学医学部の全日本大学選手権出場へと繋がりました。

翌年以降、そのクルーに乗っていた水野君が中心となり、少しずつ部を、勝利を目指す集団に変えてくれました。その後大井君や粕谷君、竹田君や鴨打君がその進歩をさらに加速させてくれました。その進歩は全日本大学選手権での結果に現れていると思ひます。レースで全力を出し切ることも出来るようになりました。

ただ、昨年の全日本大学選手権での結果は、私のクルー

編成ミスです。付きフォアに川口君を乗せていれば順当に準決勝へ進んでいたと思ひます。最後のレースとなった鴨打君や竹田君には謝らなくてはなりません。

昨年までは、半ば無理やり、全日本大学選手権へ出場させていました。選手の中には自分の意思に合わない大会に出ることになり精神的な苦痛を感じた選手も多くいたことでしょう。申し訳なく思ひます。私としては、外の世界を知った上でもう一度西日本医科学生体育大会を見直してもらおうと思ひました。今年は、もう出場する大会を決めようと思ひます。ほとんどの選手が自分たちの実力を知り、自分たちの目標を設定することが出来ます。今年には選手の意思を最大限に考慮し、付きフォアとシングルスカルを西日本医科学生体育大会に、もう一つの付きフォアとシングルスカルを全日本大学生体育大会へ出場してもらう予定です。今年は西日本医科学生体育大会でも優勝するでしょう。全日本大学生選手権大会へ出場するクルーも順当に行けば準決勝に進むでしょう。

学生が勇気を出して自分の選んだ道を究めようとしています。大学の部活動は、学生が輝くために存在するものです。大人はそれを支援することしか出来ません。夏の大会を観戦しに来ていただいている先生方はご存知でしょうが、これまでのクルーも負けはしましたが十分に輝いていました。学生が大きな視野を持ち、その上で目標設定を行い、自分の掲げた目標を達成するために全力を出して戦う

姿は美しいものです。今年、彼らがさらに美しく輝く瞬間を見守っていただけとありがたいです。

経歴

東京外国語大学端艇部コーチ

(全日本軽量級選手権優勝など)

(平成十六年～平成十九年九月)

株式会社トヨタ紡織ボート部スタッフ

(全日本選手権優 勝など)

(平成十八年～平成二十二年十月)

株式会社デンソーボート部コーチングスタッフ

(全日本選手権優勝など)

(平成十八年～平成二十四年十二月)

日本ボート協会強化委員会スタッフ

(平成十六年～平成十七年まで)

長崎大学医学部ボート部コーチ

(平成二十一年～現在に至る)

北海道大学漕艇部スタッフ

(全日本大学選手権入賞など)

(平成二十四年～現在に至る)

株式会社関西電力スタッフ

(全日本選手権優勝など)

(平成二十四年～現在に至る)

日本ボート協会医科学委員会スタッフ

(平成二十一年～現在に至る)

日本オリンピック委員会強化スタッフ

(平成二十四年～現在に至る)

アテネオリンピッククLM2x, LW2x

日本代表トレーニングメニユー作成担当

ロンドンオリンピッククLM2x

日本代表トレーニングメニユー作成担当 など

◆昨年度主将挨拶◆

四年 竹田 一博

昨シーズン漕艇部主将を務めさせていただきました竹田一博と申します。まず初めにこの場をお借りしまして、ご声援、ご支援をいただきましたOBの方々、試合を見に遠方より足を運んでくださったOBの皆様にお礼を申し上げますと思います。

そして、西医体、インカレで満足な結果を出すことが出来ず、先生方の期待に答えることができなかったことを大変申し訳なく思っております。

次に記す二点を昨シーズンは意識して参りました。

- ① インカレクルーとは別に西医体クルーを作る
- ② フィジカル面の強化

まず、①についてですが、例年インカレに出場するクルーは西医体に出場し、二週間程調整した後インカレに出場していたのですが、昨シーズンは、特に西医体が例年より遅く、西医体に出場すると、インカレまでに調整が間に合わず、インカレで十分な力が出せないという見解の下、西医体クルーは西医体のみ出場、インカレクルーはインカレのみ出場するという形をとらせていただきました。しかしながら、インカレではあと一步のところまで準決勝に上

がることが出来ず結果を残せなかったことに、OBの方々、そしてインカレ表彰台を共に目指して来た現役部員には大変重たい責任を感じております。

次に②についてですが、昨シーズンの現役部員はトップクルーのメンバーも含め、身長が一六五〜一七〇cm、体重が六〇〜六五kgと小柄で、他の大学と比べて体格的に劣ると思われたため、フィジカル面を重点的に強化することにしました。

オフシーズン期間は主に筋トレを中心に、シーズン期間中はエルゴオンオフメニューにより常に体力の限界まで力を出し切る練習をして行きました。その結果二〇〇mmトライアルにおいては全てのローヤーがオフシーズン期間と比べ大幅にタイムを縮めることが出来ました。

また、例年出場していた大会とは別に、新人戦、お花見レガッタ、軽量級といった試合にも出させていただいたことには非常に感謝しております。多くの試合経験を積むことで、自分たちの課題を見つけ、最終目標に邁進して行くことが出来ました。確かに今年西医体・インカレで十分な結果を出すことは出来ませんでした。今までこなししてきた練習は間違いなかったと思います。

今後は学問の面や怪我のケアなども含め、新幹部で反省すべきは反省し、改めるべきは改め、さらに長崎大学医学部漕艇部が飛躍することを切に願っております。

最後に、試合の応援に来て下さったり、相談に乗って下

さった先輩方、ポリクリで忙しい中、モーターボートの運転や、ローヤー、コックスの補助、そして新入生の教育で来て下さった五年生の方々、そして最後までハードな練習に必死でついてきてくれた現役部員みんなには本当に感謝しております。

皆様方のご無事息災を心よりお祈りして挨拶とさせていただきます。

◆新主将挨拶◆

三年 川口 雄史

今シーズンより主将を務めさせていただくことになりました、川口雄史と申します。この部活に入部してから、早くも二年半が経ち、気がつけば幹部学年となりました。今シーズンも、先輩方が残した伝統を受け継ぎ、長崎大学医学部漕艇部が更なる飛躍を遂げられるよう、部員一丸となつて、練習に励んでいきたいと思ひます。

最近の部活を振り返ってみると、一昨年の西医大優勝以来、この部活はあまり望んだ結果に恵まれていないように思ひます。勝負事である以上、レースに勝つて結果を残さないという意味がありません。私は、原因の一つとして考えられるのは試合に勝つという覚悟ではないかと思ひます。何

事に対しても同じだと思ひますが、日々の練習から明確な目標を持ち、試合を意識できていないと、それだけの覚悟をもつてきて練習してきた他のクルーには負けてしまひます。

そういったクルーに勝つためには練習量を増やすか、若しくはは練習の精度を上げるしかありません。

昨シーズンから、週末の乗艇では1モーション2.5kmの練習を行い、平日も厳しいトレーニングを行つています。これは現役部員も自信を持つていい部分だと思ひます。あとは絶対に勝つという目標を日々持ち続ける事さえできれば、自ずと結果につながっていくものではないかと思ひます。幸い、今の部活は優秀な選手に恵まれています。今の二、三年生は早い段階から部活の最前線にいた選手が多く、また今年の一年生は身長が全員一八〇cm以上の長身で、最近のエルゴでは、早くも二、三年を凌ぐ結果を出してきています。

私達の代は一年生の頃から医学部の外の選手とも争ひ、全日本の大会にも出場してきました。まだ良い結果こそでないもの、それに見合う形で実力も伸びてきています。この部活が創部されて以来、最良の結果を残すという事を私の目標として頑張つていこうと思ひます。こうして私達が練習に専念する事ができるのも、OBの先生方のご支援、ご協力のおかげであり、本当に感謝しております。今後とも暖かいご声援、ご協力のほどよろしくお願ひ致します。

◇新入生紹介◇

尾崎 昌士

ボート部のすべて(?)を理解したあとに、入部宣言をしたモデル顔負けのスタイルを持った熊本の人。

すでに、部活のお洒落番長。羨ましい限りである。

現在は大人っぽい、落ち着いた雰囲気を出しているが、これから経験するだろう大切なイベント(合コンなど)を経て、どう変わっていくかは楽しみで仕方ない。
頑張っで行きましょう!!!(^^)!!

谷歩 康一

三〇歳。PC関連で働いた経験を持つ。膝に痛みを抱えながらも黙々と漕ぐ姿はまさに社畜。しかし、新人ながら、乗った艇をすぐに安定させるのは年の功のなせる業か。社交性も高く、落ち着いた雰囲気は将来のキャプテンをも彷彿とさせる。エルゴでも落ち着いた漕ぎを見せており、タイムもどんだんのびるため、期待せずにはいられない。

趣味は読書(現代思想)とアイドル鑑賞(ももクロ)。お縄にならないことを祈る。

山成 康洋

ヒーローは遅れてやってくる。山成康洋も遅れてやってきた新入部員だ。菊田さん、新也、かずくん同様にエヴァTシャツを着こなし部活に打ち込む彼もまたボート部を支えるすごいヤツになってくれることだろう。とりあえず竹田さん、山成くんを合コンに連れて行ってあげてください。

平成二十四年度試合結果報告

●九州・山口医科学生体育大会

斑蛇口湖

男子1× 決勝1

- | | | |
|----|-------------|----------|
| 一位 | ワタナベ (産業) | 四分五十七秒七六 |
| 二位 | 長大シングル (長崎) | 五分〇四秒二五 |
| 三位 | 木村 (熊本) | 五分〇七秒〇五 |
| 四位 | 篠懸 (宮崎) | 五分五〇秒七六 |
| 五位 | 篠懸Ⅱ (宮崎) | 六分〇一秒二〇 |
| 六位 | 早良 (福岡) | 五分五〇秒八六 |

男子1× 決勝2

- | | | |
|----|-------------|---------|
| 一位 | 長大シングル (長崎) | 四分四三秒五四 |
| 二位 | ワタナベ (産業) | 四分四五秒七七 |
| 三位 | 木村 (熊本) | 五分〇八秒三六 |
| 四位 | 篠懸Ⅱ (宮崎) | 五分二一秒八三 |
| 五位 | 篠懸 (宮崎) | 五分三三秒七九 |
| | 長大シングルは二位 | |

男子4+対抗 決勝1

- | | | |
|----|----------|---------|
| 一位 | 阿修羅 (熊本) | 四分一〇秒六九 |
| 二位 | 雷光 (佐賀) | 四分一二秒六三 |
| 三位 | 普賢 (長崎) | 四分三六秒八九 |
| 四位 | 日向Ⅲ (宮崎) | 四分三九秒六〇 |
| 五位 | 篠山 (久留米) | 四分五六秒七一 |

男子4+対抗 決勝2

- | | | |
|----|----------|---------|
| 一位 | 阿修羅 (熊本) | 三分四一秒四〇 |
| 二位 | 雷光 (佐賀) | 三分四一秒八六 |
| 三位 | 普賢 (長崎) | 三分五六秒四三 |
| 四位 | 日向Ⅲ (宮崎) | 四分〇一秒四二 |
| 五位 | 篠山 (久留米) | 四分〇一秒七一 |
| 六位 | 早良 (福岡) | 四分二八秒一八 |
| | 普賢は三位 | |

●お花見レガッタ

戸田漕艇場

●全日本軽量級選手権

戸田漕艇場

男子ダブルスカル 予選I組

- | | | |
|---|-----------|------------|
| 1 | 京都大学E | 棄権 |
| 2 | 慶應義塾高校A | 三分三九秒四二 二位 |
| 3 | 墨田区立錦糸中学校 | 三分五六秒三六 四位 |
| 4 | 長崎大学医学部 | 三分四六秒七二 三位 |
| 5 | 日本体育大学B | 三分三三秒二〇 一位 |

男子シングルスカル 予選

- | | | |
|---|--------------|------------|
| 1 | 中村 (佐賀大学医学部) | 七分三八秒五七 三位 |
| 2 | 竹田 (長崎大学医学部) | 八分二〇秒六〇 五位 |
| 3 | 加藤 (中央大学B) | 八分一二秒五一 四位 |
| 4 | 山本 (中部電力A) | 七分三一秒二四 二位 |
| 5 | 別府 (今治造船C) | 七分二七秒四七 一位 |

男子舵手付フォア 予選B組

- | | | |
|---|---------|------------|
| 1 | 学習院大学 | 三分三九秒四六 二位 |
| 2 | 警視庁 | 三分三六秒九八 一位 |
| 3 | 長崎大学医学部 | 三分四八秒六九 四位 |
| 4 | 自治医科大学A | 四分〇二秒〇八 五位 |
| 5 | 一橋大学B | 三分三九秒五八 三位 |

男子シングルスカル 敗復J組

- | | | |
|---|----------------|------------|
| 2 | 羽鳥 (東京外国語大学A) | 七分五八秒三〇 二位 |
| 3 | 伊藤 (電源開発) | 七分三九秒九〇 一位 |
| 4 | 山崎 (瀬田漕艇倶楽部大阪) | 八分一〇秒二一 三位 |
| 5 | 竹田 (長崎大学医学部) | 八分三一秒六二 四位 |

男子ダブルスカル 予選

- | | | |
|---|-------------|------------|
| 1 | 戸田中央総合病院RCB | 七分〇四秒五九 二位 |
| 2 | 甲南大学A | 七分三五秒五七 五位 |
| 3 | 戸田中央総合病院RCA | 六分五四秒七三 一位 |
| 4 | 長崎大学医学部 | 七分二九秒五六 四位 |
| 5 | 甲南大学B | 七分一六秒一四 三位 |

男子ダブルスカル 敗復D組

- 2 長崎大学医学部 七分四〇秒七八 三位
- 3 警視庁A 七分一三秒八〇 二位
- 4 松山大学 七分一二秒五〇 一位
- 5 早稲田大学理工漕艇部B 七分四六秒二六 四位

- 1 長崎大学医学部 四分三八秒〇六 五位
- 2 松山大学A 四分〇九秒〇七 一位
- 3 東筑高校 四分二八秒七〇 三位
- 4 八幡工業高校 四分一七秒三七 二位
- 5 東筑高校 四分三四秒三五 四位

●九州朝日レガッタ

遠賀漕艇場

男子1× 予選

- 1 福岡教育大学 四分四五秒〇八 二位
- 2 九州大学 五分〇五秒五六 五位
- 3 長崎大学医学部 四分五一秒八一 三位
- 4 今南艇友会 四分三二秒八四 一位
- 5 新日鉄八幡 四分五三秒九二 四位

- 1 長崎大学医学部 三分四八秒二九 三位
- 2 新日鉄八幡 三分四三秒七九 一位
- 3 東筑高校 三分四五秒二九 二位
- 4 熊本学園大学 三分五一秒八三 四位

男子1× 敗復

- 1 九州大学 四分〇五秒七三 二位
- 2 鹿児島大学 四分〇五秒七三 一位
- 3 長崎大学医学部 四分一七秒一四 四位
- 4 産業医科大学 四分一〇秒二八 三位

- 1 山口大学A 三分二五秒九二 一位
- 2 熊本大学医学部 三分三〇秒九一 二位
- 3 長崎大学医学部 三分五四秒八三 六位
- 4 宮崎大学医学部 三分五〇秒五九 五位
- 5 佐賀大学医学部 三分三一秒一八 三位
- 6 九州工業大学 三分四〇秒一一 四位

男子4+ 予選

阿修羅

蓋世

天照II

雷光

男子4+ 予選

1	福岡教育大学		三分四四秒六一	三位
2	山口大学B		三分二八秒七九	一位
3	長崎大学医学部	翔翼		除外
4	宮崎大学医学部	日向Ⅲ	三分四九秒一八	四位
5	佐賀大学医学部	ペリー来航	三分四〇秒〇五	二位

ナックルフォア 予選

1	久留米大学B		三分一四秒七九	六位
2	佐賀大学医学部		三分〇六秒八四	四位
3	熊本大学医学部B		二分三五秒三四	二位
4	久留米大学E		三分〇六秒九一	五位
5	長崎大学医学部	普賢	二分二五秒二四	一位
6	佐賀大学医学部		二分四四秒〇四	三位

男子4+ 敗復

1	長崎大学医学部	蓋世	三分三三秒三一	二位
2	長崎大学医学部	翔翼	三分四五秒二二	五位
3	熊本大学医学部	阿修羅	三分三〇秒九五	一位
4	福岡教育大学		三分三六秒七六	四位
5	九州工業大学		三分三五秒八二	三位

ナックルフォア 準決勝

1	佐賀大学医学部		二分三五秒二〇	五位
2	河内ローイングクラブ		二分一七秒四二	二位
3	長崎大学医学部	普賢	二分二三秒二五	三位
4	今治選抜2012		二分〇八秒二二	一位
5	佐賀大学医学部		二分三二秒八三	四位

男子4+ 決勝

1	佐賀大学医学部	雷光	三分二八秒六九	二位
2	熊本大学医学部	阿修羅	三分三五秒六九	五位
3	佐賀大学医学部	ペリー来航	三分三九秒四三	六位
4	山口大学B		三分三二秒五〇	三位
5	長崎大学医学部	蓋世	三分三四秒二五	四位
6	山口大学A		三分二一秒一二	一位

ナックルフォア 準決勝

1	熊本大学医学部		二分三一秒五一	五位
2	佐賀大学医学部		二分一四秒二二	二位
3	新日鉄八幡		二分一七秒三一	三位
4	長崎大学医学部	崎陽	二分一一秒七四	一位
5	熊本大学医学部A		二分三〇秒九五	四位

蓋世は部門四位

ナックルフォア 決勝

1	長崎大学医学部	崎陽	一分五七秒五三	二位
2	今治選抜2012		一分五四秒二一	一位
3	久留米大学	篠山	二分〇四秒六四	四位
4	新菱		二分〇二秒三二	三位
5	佐賀大学医学部	しんDENDE	二分一〇秒三八	五位
6	佐賀大学医学部	ZETTON FINAL	二分一一秒一一	六位

崎陽は部門二位

●県漕艇会

形上漕艇場

舵手付フォア

予選、決勝ともに一着から長崎選抜・蓋世・鳳翼・普賢の順。形上には四レーンしかなく、当初五クルー出場予定が一艇棄権したため、予選と決勝を同じ組み合わせで行いました。

ダブルスカル

- 一着 長崎選抜
二着 長崎大学医学部

シングルスカル

長崎選抜三艇と川口雄史の四艇レース。川口は四着。

●関西選手権

浜寺漕艇場

男子シングルスカル 予選9組

1	土山 (円山川城崎RC)	七分四八秒五六	三位
2	村上 (鳥取大学B)	八分一〇秒二八	五位
3	大住 (愛媛大学)	八分一秒八七	六位
4	有馬 (高石高校K)	七分四三秒四一	一位
5	川口 (長崎大学医学部)	七分四六秒三七	二位
6	喜多河 (京都大学F)	八分〇八秒二〇	四位

男子シングルスカル 準決勝3組

1	喜多河 (京都大学F)	八分一三秒五三	五位
2	那谷 (魚崎RC)	八分二九秒五二	六位
3	中村 (佐賀大学医学部)	七分三三秒八八	二位
4	清水 (瀬田漕艇クラブS)	七分三〇秒一二	一位
5	川口 (長崎大学医学部)	七分五三秒五一	四位
6	大倉 (京都大学D)	七分四九秒四〇	三位

川口は準決勝敗退

●全日本大学選手権

戸田漕艇場

男子舵手付フオア 予選2組

- | | | | |
|---|---------|---------|----|
| 1 | 神戸大学A | 七分五二秒二〇 | 五位 |
| 2 | 名古屋大学 | 七分四五秒四九 | 四位 |
| 3 | 鳥取大学 駿風 | 七分三四秒八四 | 三位 |
| 4 | 同志社大学 | 七分二六秒六七 | 一位 |
| 5 | 長崎大学医学部 | 七分三三秒四一 | 二位 |

男子舵手付フオア 準決勝3組

- | | | | |
|---|---------|---------|----|
| 1 | 鳥取大学 駿風 | 七分〇四秒三七 | 五位 |
| 2 | 長崎大学医学部 | 六分五八秒一七 | 四位 |
| 3 | 京都大学 | 六分四七秒四九 | 二位 |
| 4 | 岡山大学 | 六分四一秒七七 | 一位 |
| 5 | 岐阜経済大学 | 六分五〇秒八〇 | 三位 |
| 6 | 名古屋大学 | 七分一〇秒九四 | 六位 |
- 準決勝敗退

シングルスカル 予選A組

- | | | | |
|---|-------------|---------|----|
| 1 | 濱田(熊本学園大学) | 七分四三秒二七 | 三位 |
| 2 | 安井(中央大学) | | 棄権 |
| 3 | 星(明治大学) | 七分三六秒七三 | 二位 |
| 4 | 川口(長崎大学医学部) | 七分五五秒三九 | 四位 |
| 5 | 宮崎(日本大学) | 七分一六秒七三 | 一位 |
| 6 | 古市(東京海洋大学) | 八分〇七秒五一 | 五位 |

シングルスカル 敗復G組

- | | | | |
|---|--------------|---------|----|
| 1 | 宗澤(東京農業大学網走) | 八分四六秒一六 | 五位 |
| 2 | 川口(長崎大学医学部) | 八分〇二秒五〇 | 三位 |
| 3 | 星(明治大学) | 七分四二秒八四 | 一位 |
| 4 | 吉田(龍谷大学) | 七分五一秒三五 | 二位 |
| 5 | 田中(兵庫大学) | 八分三六秒九九 | 四位 |
- 川口は予選敗退

舵手なしペア 予選A組

1	大阪大学	七分四四秒三七	棄権
2	長崎大学医学部	六分五六秒四四	五位
3	日本大学	七分〇四秒四〇	一位
4	明治大学	七分三〇秒四四	二位
5	一橋大学	七分三四秒四一	三位
6	東北大学	七分三四秒四一	四位

舵手なしペア 敗復B組

2	東北大学	七分四一秒九五	四位
3	九州大学	七分一九秒一〇	一位
4	立教大学	七分二一秒三七	二位
5	長崎大学医学部	七分三〇秒六六	三位

舵手付フォア 予選C組

1	明治大学	六分五六秒九〇	一位
2	京都大学	七分〇六秒七三	三位
3	山口大学	七分〇二秒五五	二位
4	名古屋大学	七分三七秒五九	五位
5	長崎大学医学部	七分一四秒五八	四位

舵手付フォア 敗復B組

2	慶應義塾大学医学部	七分一六秒五八	一位
3	長崎大学医学部	七分一九秒〇五	二位
4	関西学院大学	七分二五秒三九	三位
5	鹿児島大学	七分三一秒二二	四位

●全日本新人選手権大会

戸田漕艇場

シングルスカル 予選D組

1	竹内(今治西高校A)	八分一〇秒二	一位
2	池口(日本大学C)	八分一二秒七	二位
3	尾崎(長崎大学医学部)	九分二九秒三	五位
4	川村(慶應義塾大学C)	九分〇一秒四	三位
5	下村(大阪府立大学)	九分一一秒七	四位
6	立川(筑波大学C)	九分四九秒六	六位

シングルスカル 敗復H組

- | | | | |
|---|---------------|--------|----|
| 1 | 尾崎 (長崎大学医学部) | 八分五三秒五 | 五位 |
| 2 | 荏隈 (熊本大学A) | 八分一秒八 | 二位 |
| 3 | 松本 (東京外国語大学A) | 八分〇四秒五 | 一位 |
| 4 | 壺井 (日本医科大学) | 八分二秒三 | 三位 |
| 5 | 船門 (慶應義塾大学A) | 八分三五秒三 | 四位 |
- 尾崎は予選敗退

ダブルスカル 予選D組

- | | | | |
|---|---------|--------|----|
| 1 | 埼玉大学 | 七分五九秒四 | 三位 |
| 2 | 慶應義塾大学A | 七分四二秒三 | 一位 |
| 3 | 今治西高校D | 八分三四秒〇 | 五位 |
| 4 | 長崎大学医学部 | 八分四一秒六 | 六位 |
| 5 | 敦賀工業高校 | 七分五七秒三 | 二位 |
| 6 | 東京海洋大学A | 八分二七秒七 | 四位 |

ダブルスカル 敗復D組

- | | | | |
|---|---------|--------|----|
| 1 | 長崎大学医学部 | 八分三一秒九 | 五位 |
| 2 | 九州大学A | 七分五七秒三 | 三位 |
| 3 | 富山国際大学B | 七分四六秒二 | 一位 |
| 4 | 慶應義塾大学B | 七分五五秒四 | 二位 |
| 5 | 立教大学B | 八分〇四秒五 | 四位 |
- 予選敗退

平成二十四年度COX記

蓋世クルー記

お花見レガッタ（鴨打）
予選

今シーズン初めての試合。まだまだ漕ぎがはつきりせず、フィニッシュが全く押せておらず、スタートの練習も十分に出来なかつた。そんな中の実戦。不安だらけであったが、戸田に着いてから、東京外国語大学と練習試合を重ねることで、ちよつと自信をつける。

試合は、まだクルーに経験があまりなく、一〇〇mとということもあり、とりあえずスタートからぶつ飛ばす、という単純な作戦でいくことにする。試合展開は、学習院や警視庁、一橋に最初に出られて、そのままじわじわ離されて、終始四位でゴールすることに。敗復はなく、予選までだったが、戸田で多くの今後に繋がる経験ができた。

九朝（鴨打）

予選

発艇一〇分前にラダーの調子が悪いことに気づく。しかし、発艇まで時間がないこともあり、仕方がなくステイクボードにつける。そしてスタート。やはりラダーが全く機

能しなかつた。アテンションゴーで激しくバウサイに曲がり宮大に突進。思いつきりブレードとブレードがぶつかりあつて、宮大が「ふざけんじゃねーよ！」叫びまくっている。もちろん試合中断。一瞬、失格が頭によぎつたが、まだ一〇〇m以内だったため、三〇分後に再レースをしてもらえることに。急いで艇を上げ、三瀨さんに手伝ってもらつて、どうにかラダーを直す。

再レース。ラダーは何とか直つてくれたみたいだが、またしても問題発生。クルーのサイド差がありすぎてまっすぐ進まない。子々川のフィリッピで練習するときはまっすぐ進むのだが、遠賀で借艇したぼろぼろのデルタはラダーが大きく、まっすぐ進ませようとすると、ガタンと艇が傾いて艇が完全に止まつてしまう。そうならないようなぎりぎりのところでラダーをきつていったが、うまくすすめることができず、またしてもバウサイに曲がつてしまう。宮大にぶつかりそうになったところで、艇をいったん止め、改めてスタート。他の艇に一気に置いてかれて、最下位でゴール。自分たちの漕ぎが全く出来ずに終わる。

敗復

予選は不本意な結果に終わったが、敗復で同じことを繰り返せない。九朝に向けてたくさん練習してきたスタート、ダッシュ、ロウイングをなんとか決め、飛び出す。熊大にわずかに出られてしまい二番手で艇を進める。途中で

艇を傾けてしまったり、曲げてしまったりで、終始差を詰めることができずに、そのまま二位でゴール。なんとか決勝にコマを進める。

決勝

去年、長大がワンツーフイニッシュしたこともあり、今年も優勝をという思いは強かった。予選、敗復とまだ自分のたちの漕ぎが出来ていなかったため、決勝こそは今できるベストの漕ぎを。そう思いつつスタート。今大会で一番うまくいき、艇を進めるが、四〇〇mあたりで、山大二艇と佐賀大に大きく前に出られ、終始差を広げられてしまう。ゴールした時には一位の山大との差は三、四艇身ほどだったろうか。レートが速くなると、途端にレンジが短くなってしまうことが山大とのレース後半の艇のスピードの差だと感じた。夏までの課題をみつけると共に、自分のCOXとしての未熟さを痛感した大会であった。

県漕（鴨打）

予選

手違いで予選は四艇中四上がり。長崎選抜に勝つことが目標だったが、スタートと同時に大きく出られてしまった。鵬翼クルーと共に長崎選抜を追うことに。途中まで鵬翼クルーと横並びであったが、徐々に鵬翼クルーを引き離し、そのままゴール。長崎選抜にはほとんど差を広げら

れ、終わった。悔しいことに長崎選抜は本気を全然出していないようだった。

決勝

スタートは予選よりうまくいった。やはり長崎選抜には随分前を行かれたが、鵬翼クルーには先行することができた。なんとかして長崎選抜に追いつこうとするも、うまくいかず八〇〇mを過ぎようとしたとき、ラダーが壊れるというハプニングが起きた。ロウヤーに強く漕いでもらったり、弱く漕いでもらったりして、まっすぐ進めようとしたが、ロウヤーにうまく伝わらず、大きく曲がり、鵬翼クルーのレーンに入り妨害してしまうことに。鵬翼クルーには本当に迷惑をかけたが、何とかゴールした。今シーズンは度々ラダーの故障に悩まされる。日頃からの艇のメンテナンスが大切だと感じた。

関西選手権（鴨打）

試合一週間前に児嶋がヘルニアになり、急遽クルーチェンジ。ダブルスカルに乗っていた二宮と有賀が付きフオアに。試合まで時間がなく、漕ぎもバタバタしてしまい、果たしてどうしたものかとクルーで話していた。

予選

今シーズン負け続きで、勝つイメージを部内で持ててい

ない雰囲気があった。そんななか、付きフォアの試合の前にあったシングルスカルの試合で川口がストレートで準決勝に進出した。とてもうれしく付きフォアも負けてられないと、改めて気を引き締める。

練習でどうもレートを上げきれない傾向にあった。経験上、レートが低いと絶対に勝てないことは分かっていたので、スタート前に、繰り返し整調の二宮にレート四〇以上で飛び出すようにいっておいた。

そしてスタート。打ち合わせ通り、レート四〇のスタート、ダッシュ、ロウイング。今までで一番うまく決まり、同志社には出られてしまったものの、二番手で艇を進めることができた。どうにか同志社に追いつこうと、二枚上げや三本強くで艇速を上げようとするも、差を詰めれず、逆に一〇〇m付近でバテが見られ始めた。レートが三四まです下がってしまい、露骨に艇速がダウン。そこを、三番手の鳥取大学に迫られ、差されてしまう。まだ二〇〇m地点まで距離があったので、絶対に差し返せるといふ思いの下、しきりに「みんなでレートをあげろ」と言い続けると、じわじわとみんなが息を吹き返し始めた。そして、バウの有賀の「レート上げよう」の冷静な一言で、完全復活。みんなが再び、大きく、強く、レート三六で漕ぐとすぐに鳥取大学を差し返し、残り二〇〇mはスパートでレート三九まであげ、ゴール。同志社との差は終始縮めることは出来ず、二位だった。関西選手権でストレートで準決勝

に進むのは今回が初めて。クルーを組んで間もないことも加味すると、自分たちは、実はそこそ速いのではないかと、クルーで自信を持ち始める。

準決勝

予選で途中レートを落としてしまったことを課題に、準決勝ではもつといい漕ぎをと意気込んでいた。スタートを予選同様にきめるも、予選タイムが僕らよりも速かった京大や岡山大、岐阜経済大に先に出られてしまう。大きく、強く、差を縮めることをもくろむもうまくいかない。途中で、京大が大きく蛇行して、艇速を大きく落とし、ロウヤーがざわざわし始めた。それを機に一気に追いつこうとするも、うまくいかせず、終始、四番手でゴール。夏に向けて、まだまだ課題をみつけると共に、希望を見出せる大会であった。

インカレ（鴨打）

予選

優勝候補と目される明治と同じ組に。京都と山口も毎年のようにいい結果を残している。澁谷さんに最も悪い組で、厳しい勝負になるだろうとも言われた。しかし、予選で一位になれなくても、好タイムを出せば、敗復でいい組になることができるので、とりあえず僕らがすべきことは、予選で自分たちのベストのタイムを出すこと。そうす

れば必ず次に繋がる。そう、クルーで話し合つて、予選に臨んだ。

いざスタートしてみると、明治が二艇身ぐらい出ていたものの、京都と山口とはほぼ横並び。絶対にスピードを落とさずに、後半に抜き去ろうともくろみ耐えるも、一〇〇〇mを過ぎたあたりで、フィニッシュの伸びが鈍り、じわじわと京都と山口に離されてしまった。どうにか食らいついていこうと、大きく、強く、粘るも順位は変わらず四位でゴール。ゴールした直後、四位という順位に若干目の前が暗くなりかけるも、艇を上げタイムを確認すると、全体ではいいタイムであることが分かり、次の日の敗復の組に期待した。

敗復

敗復の組が発表されたとき、どこも僕らの予選タイムよりはるかに遅かったので、みんな喜び、準決勝を夢見た。

しかし、レース直前に、運に見放されることになる。レースを間近に突如風が吹き始め、逆流で荒れ始めた。そのうえ、ステイクボードの故障で、全クルー隣のレーンに移ることとなった。こうなると一番得をするのは二レーンから一レーンに移動することになった慶応医だ。戸田のコースは一番端のレーンは波の影響を受けにくく、逆流の影響がほとんどなかった。こういうことを言うと負け惜しみに

なってしまうのかもしれないが、やはりスタートから慶応医に出られ、僕らがそれを追いかける形に。五〇〇mあたりで二艇身位離されてしまっていた。どうにか落ち着いて大きく漕がせようとすると、なかなかうまくいかず、差を詰めることができない。二〇〇〇mが近付くにつれ、僕自身も若干この状況にパニックしてきたが、応援してくれている他の部員や澁谷さんの声で、ふともう一回冷静になることができた。一三〇〇mあたりからレートをもっと上げてスピードを上げようとするも、うまくスピードにうまくすることができなかつた。結局、差を詰めることができたのは、一七〇〇mを過ぎたあたりからで、一・五艇身から一気に縮め、〇・五艇身まで迫り、あともう少し、あともう少しで……というところでバンツという音はなつた。

近年、インカレに出るようになって、初めて掴みかけた準決勝へのキップを取り損ねてしまったことは本当に悔やまれる。スタート前に僕に何かもつと気の効いた一言や二言が言えたら結果が変わっていたかもしれない。考えだしたらきりが無いが、この悔しさは、きつと来年後輩たちが晴らしてくれると思う。

九山（竹田）

当初僕がお花見レガッタに、よしとが九山にシングルで出場する予定だったが、よしとのローイング技術が急成長したことにより、僕が九山、よしとがお花見レガッタ出場

となる。

今年の九山は全体的に艇のエントリー数が少なかったためか、シングルは二回レースで平均タイムで順位を決定することになった。例年通り波が高く荒れていたため、一本一本でいかに落ち着いて艇を進められるかが勝負の明暗を分けると思われた。そして、一回目のレース、スタートで隣の産医に大幅に出られる。熊本と五〇〇mまでは並んでいたが、橋の下を過ぎラストスパートをかけ、二位に。この段階で一位の産医とは七秒差。

続く二回目のレース、先程のレースでスタートで出られなかったので次はスタートでレートMAXで出る。波の影響を受け、艇は不安定ではあったがレートを維持し、一位でゴールイン。二位の産医とは二秒差。総合では二位に。

軽量級（竹田）

試合一週間前に「今まで、そしてこれから出る試合の中で最もレベルの高い試合。遅すぎたら、ブーイングが来る。」と澁谷さんから脅される。戸田到着後、日大さんからピンクのウインテックをお借りする。リギング後さっそく蹴り出すが、フォアのバウにレーンを逆走するなど怒鳴られ、先行きが不安になる。艇はかなり軽く感じた。ただ、慣れないウイングリガーということもあり、ハンドルレベルを常に一定に保つのが困難に感じた。

いよいよ予選当日。シブケンからははじめに他の艇に出られても他の艇が視界に入るまで力を振り絞ってついて行けとご指導を受けた。初めての戸田のレースということもあり、かなり緊張した。自分の中では終始頭の高さを一定にすること、フィニッシュで腕を真後ろに引き切ること意識するつもりだったが、レースが始まると他の艇のレートがあまりにも早すぎることに焦ってしまい、あまり意識出来ていなかった。後半は一本一本を大きく漕ぐことに集中していた。一五〇〇mくらいから中央大の艇を後ろに見ながら一定の距離を保っていた。結果は五艇中五位。

続く敗者復活戦。予選の時に出来ていなかった、艇の観察とフィニッシュのみを意識していったが、他の艇についていくことができず、四艇中四位…。

結果は全くであったが、初めての戸田のレースであり自分のクズさを知るとても良い経験になった。

九朝（竹田）

（予選…シングル竹田、敗者復活戦…ダブル竹田、二宮）
軽量級で結果が出せなかったこともあり、九朝では何があっても絶対にメダルを取ってやる気だった。シングルは一番はじめのレースで、他のクルーを引っ張っていくためにも、まずは予選で良い結果を残したかった。体調も良く、アップもうまくいっていたので良いレースが出来そうな気がした。が、しかし、レースがはじまるとステッキボード

から一つ目のブイまでレーンが張っていなかったこともあり、大幅にレーン侵害してしまう。隣のレーンの人に怒鳴られながらも必死について行くも、なかなか自分のレーンに戻れない。かなり蛇行してしまい。結果は三着。敗者復活戦へ。二着と六秒差。行けると思っただけに虚しかった。骨盤を倒して最後までオールが出ないようになっていたことを練習していたが、正直あまりうまくいっていなかったと思う。今書いていて思うが本当に日々の練習が積み重なっていない。試合ごとに成長できていないのではないかと情けなく感じる。

敗者復活戦

他の敗者復活戦出場メンバーのタイムを見る限り準決勝に上がれると思っていたが、ここで、シブケンからまさかのダブルヘクルーチェンジを宣告される。ゆうしの方がシングルに適している。そして二ノは整調よりもバウの方が向いているという考えの下、ダブルの整調へ。

ダブル、シングル両方の結果を考えた時にベストな結果を狙えるのはこのパターンかもしれないということだ。過去に二ノとダブルを漕いだとき息が合ったこともあり、今回もうまくいくと信じた。予選でゆうしに迷惑をかけたと弱気になっている二ノを後ろに乗せいざ出航。二人で極力オールをすらすらに、スタートでぶっぱなそうということだけを意識した。

九〇〇mまで、新日鉄八幡が半艇身前に出ていて、二位に位置していたが、あろうことかゴール手前で僕がブイパークしてしまい東筑高校に二位の座を譲ってしまい、あと一步のところで準決勝進出出来ず、二ノには非常に申し訳ないことをしてしまった。

インカレ(竹田)

(敗者復活戦ペア…S竹田、Bじーこま)
予選

発艇は七時半から。その一時間前の六時半に蹴り出した。アップ中はいつもどおりインハンドローや三〇本ハード一〇本イージーなどで漕ぎを確認、レースにのぞんだ。スタートでまずしくじる。艇の動きが悪く出遅れてしまふ。外から見ても僕らは第一クウォーターでは、はじめの二五〇mよりもあとの二五〇mの方が速かったようだ。普通はあり得ない。五〇〇m地点で一レーンのお阪大学が転覆しているのを目撃」(結局大阪大学は復帰できず、そのまま失格に)。第二クウォーターはスタートでの失敗から落ち着きを取り戻せたと思う。第三クウォーターは指導された通り、「艇速を落とさないように、落ち着いて大きく強く」を意識。が、一二五〇〜一七五〇mで失速してしまう。まずいと思えばスタートがかかるが、五着でゴール。スタートと中盤の失速が次の日の敗復の課題となった。ただし、今思うとけっこう蛇行もしていたし、もっと適

切なコールをかけられれば艇速も変わっていたかもしれない。申し訳ない気持ちでいっばいである。

県漕でフオアに乗ったことがきっかけで、艇に対する意識が六月辺りから大分変わって来た。

インカレが最後の試合。当たり前だが体力的にも、技術的にも最も洗練されていた。

予選でスタートの伸びが足りなかったことが最大の敗因であった。

臨む敗者復活戦。即効チャージも栄養ドリンクもしっかりと補給し準備万端。

—レース直前—

今まで練習してきたこと：腰をしつかり倒してオールをリリース、インハンドをよく伸ばし自分のサイドに傾ける、後ろのじーこまの動きを体で感じる、ハンズアウェイで形を作ってそのまま腕だけをあげエントリー、肩の力を抜く：を今一度確認。

ふくちゃんからもらったスポーツドリンクを飲みながら気持ち落ち着かせる。

—three minutes—

じーこまとスタートで思いつき足に力を入れて飛び出すぞー！と確認し合う。

そつとー

Attention GO!!!

シブケンの「はじめの一〇〇m足つるぐらい押さんと、スタート成功したとは言われへんで」という言葉が脳裏をよぎる—

全力で飛び出す。ほぼ団子！しかし一〇〇mを過ぎたあたりから違和感が…。

ストサイに曲がってコース侵害している：コールをかけた自分を鼓舞するもコースがなかなか戻らない。蛇行しながらも必死に九大、立教大について行く。

まだ巻き返せる！足にさらに大きな力を加えるも斜めに進んでしまう。

最後まで全力疾走したが一位の九大とは一〇秒ビハインド。

現役部員としてのボート部人生はこうして幕を閉じた。

反省

オールの長さ、スプレットの調整でペアの蛇行は抑えることが出来る。一、二cmの差で大きく変わる。蛇行するのは最ももったいないことだ。

P.S. じーこま今までありがとう

お花見レガッタ (二宮)

ダブルスカル (川口・二宮)

三月三十一日

この日は予選が十二時二十分発艇予定のため、早朝に乗艇練習を行う予定でしたが、ひどく雨が降り始めたため乗艇せず。レースは開始されましたが、強風のために十一時前にレースが一時中断。三時間二〇分遅れで再開しましたが、今度は雷雲の接近とゲリラ豪雨のため、その日の試合は中止となり、この日に予定されていたダブルスカルの予選は翌日に繰り越されました。

四月一日

予選九時発艇。四艇レースで一位が決勝、二位が順位決定へ。予選からスタートで日体大Bが飛び出し、その後慶応高A、長大、錦系中が続く。五〇〇mまでは慶応高Aとほぼ横並び、しかし、そこから徐々に差が開いていき、三着でゴール。

スタート直後で落ち着いて艇を進めることができず、中盤までは二位の艇についていくことができましたが、ストロークサイドに艇が曲がり上手く立て直すことができず、スパートも艇速を保つことができず三着に終わりました。

今後の課題として、艇をまっすぐに進める、落ち着いて試合に望むことが大切だと感じました。

全日本軽量級選手権大会 (二宮)

ダブルスカル (川口・二宮)

全日本の大会であり、トップレベルの選手が多く出場している大会。非常にレベルが高く、予選突破まではまだまだ遠かったですが、多くのことを学ぶことができました。また、戸田に在る間に住友金属の選手の方と同じ艇に乗せて頂き、艇にブレーキをかけない漕ぎ方を直に教えていただきました。

予選

五艇レース。スタートで戸田中央総合病院の二クルーが飛び出し、五〇〇mまでは三位の艇と横並び。しかし、そこから徐々に離され四位でゴールしました。レースが進むにつれてバウの僕が上手く川口に合わせる事ができなくなり、艇がスムーズに進まなくなりました。

敗者復活

四艇レース。予選と同じく、二クルーが飛び出し、長大は三位。また、一五〇〇m地点では、四位の艇に追いつかれるもスパートで離すことができました。七〇〇mを過ぎたあたりで艇が蛇行し始め、隣のレーンに入ったり、今度は反対側のレーンに入ったり。強く大きく漕ぐとともに艇をまっすぐに進めなければならぬのに、それができませんでした。さらに審判艇から抜かれ、その審判艇からの波に

よってさらにまっすぐ進めることが困難になりました。ラスト一〇〇mで、疲れきった体でも力強い漕ぎができたのはよかったと思います。

九州朝日レガッタ (二宮)

ダブルスカル (川口・二宮)

他のクルーは多くが高校生という中で、予選・敗復と勝つことができなかったのは非常に悔しく、また、練習でできることを試合になるとできなくなる自身の欠点のせいで、勝てる試合だったのに勝てなかったのは申し訳なかつたです。

予選では、バウのストサイが数回切れ込み、試合後、ピョンが緩んでいたことが判明しました。落ち着いて漕ぐことができず…。

敗者復活では、二艇上がりで、八〇〇mほどで二位と並び、二位を抜きましたが九〇〇mのブイにオールが引つかり、結局三位。非常に悔しかったです。

県漕 (二宮)

ダブルスカル (二宮・有賀)

子々川から形上まではダブルスカルで漕いでいくのは危険だということで、借艇しました。それまでの練習では、今までのローヤー人生でこれまでにないくらいに完璧なスタートが一度あり、とてもいい雰囲気練習することができ

きました。

試合は、二艇レースの一試合のみで、相手はRC長崎。一レース目だったため、ステッキボードの位置がおかしく、クイックスタートとなったため、緊張してしまいスタートから相手に出られ、一〇〇mくらい差をつけられ負けました。レートは出たものの、ブレーキが大きく艇速はあまり出ませんでした。

小艇には今まであまり乗ったことがなかったので、一度はダブルスカルで沈したりとすごく大変でしたが、それ以上に自分の漕ぎの下手さを感じ、それを直すことで成長することができました。

県漕 (川口)

予選

一週間前の九州朝日レガッタからシングルに乗り始めたばかりで不安はあったが、とりあえずスタート。ハイレートの練習も余りできていなかったため、まだ上手くバランスをとれておらず、初めから離されてしまう。残り三〇〇m位で少し諦めがはいり、次の試合に繋がるような良い漕ぎをしようと思ったらスピードが出始めた。結局四着でゴール。この試合は敗復がなかったが、もう一試合したらもつと勝負できると思った試合だった。コーチからも「シングルでいけるね」との声。自分は体格が小さく不安はあったが、シングルの楽しさを感じることができた。

ただ、もう少し早く始めて国体にでたかった。

関西選手権（川口） 予選

五艇二上がりのレース。自分は二レーンでスタート。スタート直後三レーンの選手が一人抜け、残り四人は横並び。あまり自信はなかったが三〇〇m付近でいつの間にか二位になったので、そのまま三位の選手をみながら二〇〇〇mまで漕ぎきり二位でゴール。一位とも一艇身差くらいで、全体でみても、どのレースでも勝ち上がれるタイムであった。正直それまでは、シングルでレースに勝てる気がしていなかったもので、少し自信がついた。次にレースがある付きフォアをやる気づけることができたのは良かったと思う。

付きフォアも含め、二〇〇〇mのレースでストレートで勝ち上がる経験がなかったため、今回の試合は成長を感じることができた試合だった。

準決勝

五艇一上がりのレース。タイム的に二レーンでスタート。三レーンに佐賀大学の中村選手がおり、とりあえずその選手について行くことを狙ってレースに挑んだ。スタートからペースを上げていったが、三、四レーンはやはりトップスピードも早く、最初から離されてしまい三位で進

む。一二〇〇m位で一レーンの選手が上げてきたが、粘ることができず、結局四着でゴール。予選の方が良い漕ぎをしていた様に思う。トップスピードをもっと上げなくてはいけないと思った。まだまだ二〇〇〇mを漕ぎ切る体力がないと感じた。

インカレ（川口）

予選

五の二上がりのレース。予選前からとりあえず良いタイムだけを出す様言われていた。スタート直後一位の日が消えて二位の選手と並んだ形でスタート。その後五〇〇m手前で失速してしまい四位に落ちる。最後まであまりスピードを上げれず結局四着でゴール。タイムも全然ダメだった。コーチからは「全然漕いでない」との指摘。勝ち上がるという覚悟が足りなかったと思う。

敗復

スタートから一〇〇〇mまで三位で進む。一、二位の選手もひっくり返せる距離にいたが、ばててしまい失速。勝負所で勝負できないまま負けてしまった。

インカレに関しては完全に体力不足。練習をこなすことだけを考えており、練習の質が良いものではなかったと思う。同じ距離を漕ぐにしても、スピードで練習成果は全然

変わってくる。二五km×二の練習が完全にこなすだけになってしまっていたので、この結果を来シーズンに活かしていこうと思う。

このチームに必要なのは結果であり、自分はシングルで漕がせてもらった以上、みんなに先立って結果を残す必要があった。しかしこの惨敗。周りのクルーに申し訳なさも感じる不甲斐ない結果であった。来年で最後なのでこれ以降、そう簡単に負けるわけにはいかない。

鵬翼クルー記

九山（牟田）

人数の関係と自分が漕手として乗ることができなかつたため、身長一八〇cmオーバーの自分がコックスとして乗ることになった。今回、試合に参加するクルーの数が少なかつたので、いきなり決勝戦、しかもその決勝戦を二回行うという。

決勝1

コンディションは最悪、横風にあおられながらスタート地点につく。アテンション……ゴー、スタートSR三八、ダッシュSR三六、まずまずのスタートだった。しかし、一位の熊本大学に半艇身出られてしまう。すかさずコールを入れるが、なかなか縮まらず、逆に五〇〇m地点ではそ

の差は広がっていく一方、自分はあせりコールを入れるのだが、声がかすれて漕手としては何を言っているのかわからなかつたらしい。二位との差を五艇身もあけて六艇のうち三着。

決勝2

スタート、ダッシュともに一回目と同じくまずまず。三艇が並ぶ接戦のスタートであったが、四〇〇m地点からだんだんと差がひらき、コールを入れるもその差を縮められず、一回目と同じく三着。

敗因としては他の大学には粘れる体力があつて、自分たちにはなかつたこと。そして今回自分はコックスとして初めて試合に出たのだが、まだまだ自分が冷静になることができず、漕手の緊張をくみ取ることができなかつたことも原因の一つだと思う。

九朝（牟田）

予選（再スタート）

今回も借艇での試合だったが、ラダーが壊れていて艇をまっすぐに進められるか心配だった。スタートのとき、ストサイに艇が向き、すかさずラダーを思いっきり入れたのだが修正できず、隣のレーンの艇と接触をしてしまう。

失格と思ったのだが、再レースとなり、ほっとしたのだが動揺を隠しきれず、再レースになるも艇をまっすぐに進

められず最下位という結果になってしまふ。自分のふがいなさを痛感した。

敗復

一回ミーティングを行い自分は艇をまっすぐすすめることを第一として考えた。スタート、予選のようにはならず艇はまっすぐすすむが、他のレーンの艇にまえを出られる。差をなかなか縮められない。コンスタントレイトがだんだんとさがっていき、コールを入れるも漕手に疲れがみえたのかなかなか上がらず、そのままじりじりと離されていき最下位。今回、コックスをやってみて、コックスは決して楽なものじゃない。むしろ、メンタル面的には漕手よりもタフじゃないとやっていけないものなんだと実感した。自分の甘さがにじみでたのではないかと思えます。今度、自分が漕手となるときはコックスに対して敬意を抱きながら漕ぎたいと思います。

九朝のあと、三番の自分がCOX、新人艇の水野が鳳翼の三番に乗り新しいクルーとなった。

自分は戸田での新人戦で二週間ほどCOXを経験していたが、大して艇のことを分かっているないので同じクルーの先輩達やコーチに頼りながら練習していった。

県漕（西原）

コンディションは良好。

試合は同じ組み合わせで二試合やり、その平均タイムで競うこととなった。

一試合目

スタートで失敗し蓋世、長崎選抜の前に出られる。というか長崎選抜は一〇〇m地点で一艇身差くらいついていた。力の差を顕著に感じた。

すぐに立て直すもレート三八くらいからコールをかけてもなかなか上がらずラスト三〇〇mでスパークかけるも変化なし。すぐにバウが渾身のスパークをシャウト。スパークがかかる（あとで分かったことだが、COXがオシャカになっておりPOWERは何も聞こえなかったそう。おこられた）。しかし差は必ず開き、最終的に蓋世とは一艇身半差で三位ゴール。

スタートで失敗したのは自分が焦ってアップが充分できないまま早く発艇場所に向かってしまったせいだと思つた。クルーと反省し、スタートでレート三八、コンスタント三六で落ち着いていつもどおりの漕ぎをやっていくことになった。まずは蓋世に勝てるように頑張ろう。長崎選抜は速すぎた。

二試合目

一試合目で蓋世に負けてしまったため、より一層気合いをいれて臨む。

coxboxのマイクが使えないため最初から全力で叫ぶ。スタートはうまく決まり、レート三六で維持もできており、蓋世に並んでいたが五〇〇m地点あたりからバテはじめ、だんだんと差がつく。今考えればここでrowerに粘りを出させるようなコールができていればと悔んでやまない。ラスト三〇〇mでスパート。この時点で蓋世とは一艇身差。ここでじりじりと差が詰まり、もしかするかもと思ったが、ラスト二〇〇mで蓋世のラダーが壊れ、こちらのレーンへ。予想外の事態に対処できず、このままではぶつかると思ったため、空いていた隣のレーンに入ってしまった。そのまま進んで三位ゴール。このときすぐに止まって手を挙げていれば試合がやり直されたかもと、ここでも悔んでやまない。頑張っているrowerに申し訳ない。結局レーンをはみださないことくらいしかできなかったが、これからの練習課題が体力面だということが分かった。

西医体（西原）

コンディションは三日通して若干の波があった。試合会場での練習でrowerが緊張していることがわかった。ちよつと多めに練習することで緊張をほぐそうと思つたが、かえって疲れさせてしまうのもいけない。rowerと話し

合いながら練習していく。子々川での練習でコンスタントレート三八で三分半持つことが分かったので、スタート六本ダッシュ十本ロウイング十本とラスト三〇〇mでのスパートはレート四〇でいくことにした。

予選

四の二上がりで佐賀の雷光との勝負。落ち着いていこう。スタートで切りこみ、ダッシュで切りこみ、なかなか立て直せない。悪い所が全部出た。

五〇〇m地点で佐賀と一艇身差。これから差を詰めようと何度かコール、スパートをかけたが前半の立て直しに体力を使いすぎ、レート四〇はあまり続かなかった。最後は佐賀に二艇身差の二位でタイムは三分三五。準決勝進出だが進出した艇の中で一番タイムが遅いため不安は残る。落ち着いてスタートを成功させ、練習通り最後まで粘れば一〇秒は縮まるとクルーの士気を高めた。

準決勝

スタートが成功し、二五〇m地点で鳳翼含む三艇はだんご状態。そこからじわじわと京都、滋賀があげてくる。ここが粘り所だとレート四〇まで二枚あげ、強くのコールを何回もいれ、二位の滋賀とは半艇身差。ラスト二五〇mでスパートかけるもレートは変わらず、最後は二位の滋賀に一艇身ほど離され、四位の大阪に一秒差の三位。タイムは

三分二四、決勝進出である。本当に一〇秒縮まった。今までで一番良い漕ぎができたのではないかと思う。だがそれでも決勝の艇の中で一番タイムが遅い。逆に挑戦者気分で燃える。決勝ではコンスタントレート四二でいくことにした。

決勝

スタートで崩し、すぐに立て直しのコールいれるもレート四〇までしかあがらず、五〇〇〜七〇〇m地点でレート三八になり、スパートでまたレート四〇にあがった。スタートで半艇身差、三〇〇m地点で一艇身差、五〇〇m地点で一艇身半差、七〇〇m地点で二艇身差、ゴールでは三艇身差くらい鳳翼以外のだんご集団とついた。残念だが、まだまだ決勝で戦うレベルに達していないと思った。自分の操船技術はもとより、クルーの落ち着かせ方やコックスとして rower のためにできることが不十分だったと感じた。この経験を通してコックスとして成長し、来年こそは優勝を勝ち取りたい。

新人クルー記

九州朝日レガッタ

(ナックルフォア)

S 水野(弘) 3 尾崎 2 谷保 B 菊田

予選

例によって数回の乗艇練習のみで臨む新人デビュー戦。まともに五〇〇mを漕ぎ切ったこともない状態だったが、まあなんとかなるだろうと気楽に臨む。

レースは医学部の新人クルーや男女混合クルーばかりの六艇レース。もちろんスタートダッシュなどつけられるはずもなく、低レートスタートだったが、一〇〇m付近からは独走態勢。途中一年生がへばって消えかかりつつも、二位に一〇秒差以上つけてそのままトップゴール。全体でも上位のタイムで、翌日の準決勝へと意気があがる。

準決勝

予選タイムがよかったので真ん中のレーンをもらったものの、両サイドは河内ローイングクラブと今治選抜 2012 の社会人クルー。二艇上がりなのでどちらかには勝たないと次には進めない。

スタート直後、今治選抜に置いて行かれ、河内ローイングクラブに一艇身差での三位の序盤。なんとかくらいつい

ていたが、最後は自力の差で詰め切れず、二位と二艇身差の三位。

ともかく一年生には勝負の楽しさ(と想像以上のきつき)を感じてもらえたようなので、よしとする。これから夏に向けてひたすら漕ぎまくってもらおうことにしよう。

県漕

S 粕谷 3 尾崎 2 谷保 B 菊田

今年には新人が一艇のみということもあり、付フォアのエントリーが四艇だったため、予選を行わずに四艇レースを二回行った。

九朝から一週間後ということで状況はそれほど変わっていないわけでもなく、二レースともスタート直後に置いて行かれ低レートで一人旅。とにかく一〇〇〇m(十一〇〇m)という距離を経験するいい機会にはなった。

西日本医科学生体育大会

S 粕谷 3 尾崎 2 谷保 B 菊田

予選

ハイレートでの一〇〇〇mレースはこれが初めてとなる。一年生にとっては実質デビュー戦であり、レース前練習からクルー全体に固さがみられた。

スタートは固さが抜けずバタバタとした出だし。コンスタントに入ってからSR三〇〇三二程。普段に比べて

レンジが短くなり予定よりも艇速に乗れていなかったが、それでも三〇〇m付近では二位に半艇身ほど付けた首位、五〇〇m付近では独走態勢に入った。後半はレンジを大きくするようにコールを入れ続け、一応ラストのスパートも入れてそのままゴール。

全体でも上位のタイムであり、rower達も自信がついたようである。

準決勝

前日の予選ではスタートからばたついて、そのままコンスタントまで引きずってしまったので、準決勝では二枚程落としたコンスタントSR二八〇三〇でいき、その分一本大きく艇を進める方針とする。

二レース目ということもあり、予選より落ち着いてスタートする。安定はしているものの少しゆっくり目に入った分飛び出せもせず、それでも三〇〇m地点で隣の佐賀大と一ノ二艇身差の二位。この二艇での一騎打ちとなる。コンスタントは予定通りSR二八〇三〇で予選よりもレンジは伸び艇の進みもいいが、佐賀大の方がrowerが高い分なかなか詰め切れない。結局ラストスパートでも詰め切れずに二位でゴール。

次の日の決勝行きは決めたものの、このままでは優勝は難しい。宿に帰ってレースプランを練り直す。

決勝

準決勝と同じSR二八〇三〇でいくのが一番艇も安定し艇速に乗れるが、準決勝と同じ轍を踏むことになってしまふ。多少のリスクは負うが、コンスタントSR三四で攻めていくことにする。

スタートから予選タイム一位できていた宮崎大学が一艇身近く飛びぬける。二五〇m付近で浜松、佐賀と並び二位集団。HSTを高くした分、多少艇の動きに硬さはあるものの、艇速自体は悪くない。我慢しながら五〇〇m付近へ。スタートからオーバーペースできていた宮崎が崩れて落ちてきた。このまま捕まえて一気に首位を奪いたかったが、こちらも小さく崩して佐賀に先に出られる。七〇〇mで佐賀が一位、三／四艇身でうちが二位、鼻差で宮崎、浜松が続く。スパートをかけなんとか追いつこうとしたが、最後は佐賀に逃げ切られ、逆に追いつけてきた浜松に僅差で差され三位。

残念ながら優勝は逃したが、それでも数年ぶりの新人でのメダルは手にした。あと一秒とんでも悔しい限りだが、この悔しさを今度は一般部門で晴らしてもらおうことを期待する。

部員雑感

雑感

一年 尾崎 諒史

ボート部に入部してはや六ヶ月。こんなにも濃い六ヶ月を過ごしたのは今まで生きてきたなかで初めてです。どうやら、今後さらに濃くなっていくようです。どうしましう。食らいついていけるよう、頑張ります。

雑感

一年 谷歩 康一

筋肉が悲鳴をあげました。でも、その声は黙殺されました。筋肉は今も悲鳴をあげ続けています。やはり、その声は黙殺され続けています。嗚呼、阿鼻叫喚。

雑感

二年 新垣 慶人

二年シーズン中の練習はなかなかきついなものでした。正に、お肌真つ黒なボート日和でした。これからは、美容面にも気を付けて頑張っ行って行きたいと思えます。

雑感

二年 児島 知仁

エルゴ用のCDを作りたけれど、僕がチヨイスした曲だとみんなやる気なくなりそうなのでやめときます。

雑感

二年 西原 新也

COXをやり始めてから四カ月ほど経ちました。もうrowerのキツさがわからなくなりました。ひらきなおってビシバシやっていきます。

雑感

二年 佐藤 晋平

今年度こそ本気をだして、頑張ります。

雑感

二年 水野 孔士

一生理には気をつけましょう(一一)

雑感

二年 牟田 龍史

今 自分はボート部を休部しています。

なので、今年目標はボート部復帰。

雑感

二年 二宮 直樹

昨シーズンは多くの問題を起こしてしまい、すみません

でした。今は、反省してボート・学業ともがんばっています。

多くの問題を起こした分、その分、ボートに関しても他のことに関してもいろいろ変わったと思います。さらに脱皮できるようこれからもつとがんばります。

雑感

三年 有賀 建治

現役生活残り一年を切ったので、悔いの残らないように頑張っていこうと思います。

雑感

三年 池田 英史

雑感：雑な感じ：今シーズンはいろいろと雑になってしまったような気がします。その結果が表れたと痛感しています。

来シーズンでしっかりとボート部を堅牢で強固な組織にし、再び強く賢い長崎大学医学部ボート部にするために頑張っていこうと思います。

雑感

三年 川口ゆうし

性欲は年をとるにつれて衰えるものなのですか？不安です。

雑感

三年 福田 龍一

今年もまたシーズンが終了しました。

オフシーズンはクオードを漕ぐという自分のボート人生としては比較的珍しい経験をしました。なにげに楽しかったのですが、お花見レガッタ以来クオードのオールは握らず、いつの間にかスイープ使用に戻っていました。でも良いです。スカルは鼻がかゆくなって手を離すと言うことが出来ないのです。

どうでも良いことですが、今年も再びクオードでインカレに出ました。結果はご存じの通り、予選敗退という苦汁をなめました。正直言つて「やっとシーズンが終わった……」程度にしか直後は考えられませんでした。何一つ結果を出せずに長崎に帰ってきたことには非常に心残りなものがあります。来年はいよいよ現役最終学年です。何か結果を

残さねば。

そしてそのためにも自分が先ず第一にやらなければならぬのは、「後悔しないためにもどんな些細なトレーニングにも全力でぶつかる」ということだと思います。エルゴにしろ何にしろ、しんどいのは嫌です。でもそこを乗り越えずになあなあに出した結果として仮にそれが良い結果だったとしても後から「本気を出していればもっと良い結果が出せたかも……」と後から悩むのは嫌です。出せた結果が悪い結果でも、それが全力だったのなら仕方ない。後悔のない現役最後の年にしたいものです。

雑感

四年 鴨打 周

これからはぼーっとしようと思います。

雑感

四年 菊田 龍

今シーズンは自分の中ではあつという間に終わってしまった。まず、今シーズンはラストシーズンということもあり、オフシーズンから例年以上に練習に励もうと思つた

ら、オフシーズン最初のミーティングで倒れてしまい、その後の練習に全く参加できなくなってしまう、そのことは本当に部活に迷惑をかけてしまい、申し訳ないと思った。結局シーズンでは教育クルーでクルーキャップを務めることになり、結果的には西医体で三位という結果を収めることができたが、正直この結果は僕には悔しいものであった。なぜなら、僕の今までの経験と艇の仕上がりから絶対一位になれると確信していたし、なによりも一年生二人を表彰台の一番高いところに立たせてあげたかった。ゴメンね、谷歩、尾崎。

来年以降は少し離れた位置から、後輩達の活躍を応援する隠居生活に入りたいと思います。

雑感

四年 田尻 昌士

素晴らしい後輩たちに支えられたお陰で現役最後のシーズンを気持ちよく終えることができました。一、二、三年生の後輩たちに感謝の気持ちで一杯です。

雑感

四年 竹田 一博

吾輩はボート部員である。
理性はもうない。

雑感

五年 上瀧 善邦

ポリクリでいろんな科をまわっていると必ず聞かれることがある。それは部活だ。

それで「ボート部です。」とまじめに答えると決まって同じ反応を示される。それは笑いや驚きだ。それだけならいい。

ある科をまわっていた時、他大学出身の先生に言われた言葉。「僕は長崎大学出身ではないけど、長崎大学医学部ボート部が史上最悪だったことだけは知っている。」普通の人（ボート部以外の人）ならこんなことを言われたらいい思いはしないだろう。だけどボート部の僕は言われて光栄に思う。

最近思うことがある。

長崎大学医学部ボート部はブランドだ。

なぜならボート部と言っただけでコミュニケーションが成立するからだ。

ボート部であるだけで何か巨大な力に守られている気がする。

いろいろ書いたが僕はボート部を愛している。

他の部員そしてOBの先生方もきつと同じ思いだろう。

偉大な先輩方が築き上げてこられたボート部というブランドをこれからも守っていききたいし、後輩にも守り続けてほしい。

伝説は作ってもいい。

警察に捕まらない程度に。

雑感

五年 粕谷 泰祐

今年の新人クルーは、OBの総力を結集して育てたクルーでした。五年生が二人が実習で参加できない時は、他の五年生が積極的にカバーに入ってくれました。時には六年生のお力もかしていただきました。：国試で忙しかったはずなのに。そして藤田さん！勧誘をはじめ、シーズンを通して気にかけていただき、本当にありがとうございます！

Facebook上で応援メッセージを送ってくださいった先輩の先生方にも感謝しています。先生方のおかげで、艇の購入整備、遠征など、部の運営が成り立っています。いつも本当にありがとうございます。

この場をお借りして、一緒に戦ってくださったOBの皆様
に厚くお礼を申し上げます。

みんなで育てた新人の、これからの期待しましょう！

現役諸君に一言

試合で勝ちたければ、自分が一番キライでやりたくない練習を、優先的に選んでやるべし。

己の弱点は、自分自身がとづくに気づいているはずだから。

雑感

五年 朝野 寛美

四年の夏で引退して早くも一年がたってしまった。六年間なんてあつという間って先輩がよく言っていたけどほんとそんな感じ(まだ五年だけ)。なかなか下の学年と絡みがないこともあって、部活(卓球)しに体育館に行ったときに先輩がエルゴやっているのを見るとつい最後までみてしまう。大変やなーと思いつつ自分もがんばらなやなー(卓球とか勉強とか)と思わせてくれる。……もう書くのめんどくさいからこのへんで失礼(汗)文字数記録更新！

雑感

五年 丹下 寛也

五年生になりました。

雑感

五年 三濑 正秀

コックスというポジションになったのが二年生の九月。それ以来どんなに眠かろうと体調が悪かろうと、なぜか決まってコックス席に着くとスツと調子がよくなったものです。

今年の五月から幸いにも竹田くんからお声がかかり五度目のシーズンに突入しましたが、そんな調子でどんなにポリクリやバイトでヘトヘトでも、乗艇中は楽しく過ごさせてもらいました。

引退した身ながら、もう一度勝負する楽しさを味わうことができました。感謝。

雑感

五年 大井隆之介

部活を引退して一年以上が経ち、ポリクリも既に半分が終了してしまいました。入学したころなんて、ポリクリなんてもつと先のことだろうと思っていただけ、本当に月日が経つていくのは早いものだなと感じています。さて、今回は最近あった出会いについて書いてみたいと思っています。といっても、以前にも一度だけお会いしたことのある方ではありますが。

初めての出会いは、生後一か月の時。この時40℃の発熱、嘔吐、眼振などの症状があり、両親はあわてて病院に。当時主治医をしていた先生の判断で急いで髄液検査を施行。結果髄液は混濁しており、医師は抗菌薬を処方。その後医師は両親にこう告げた。「このまま死んでしまう可能性もある、仮に命が助かったとしても重度の障害が残るかもしれない」と。そんな状況の中でも主治医の先生は懸命に治療をしてくださり、約一か月間のNICUでの治療を経て、ようやく熱も下がりが一命を取り留めることができた。初めて話を聞いた時はショックを受けしばらく立ち直ることができなかったが、それでも主治医の先生は懸命に治療している励ましてもらって本当にお世話になった、と今でも時々話をすることがある。退院してからは、この先生と会うことはなかった。

あれから二五年の月日が経ち、自分もいよいよポリクリが始まり小児科を回っていた時のこと。最初先生方の前で

自己紹介を終え次の実習場所に向かう時、一人の先生に呼び止められた。「君、昔〇〇病院で入院したことない？」と聞かれた。その話を聞いた瞬間もしかしてと思つて当時の話をする、なんとあの時の主治医の先生だった。その後いろいろな話をしたが、今まで診てきた中で印象に残っている患者さんの一人だったみたいである当時のことを鮮明に覚えてくださったついで、本当に嬉しかった。当時先生は卒業三年目であり、後日その時の写真をわざわざプリントしてくださり、私に渡してくれました。

今回の再開は本当に嬉しいものでした。これから医者としての人生は長いと思うけど、ふとした時にこうした出会い・再会があるといいなと思つています。そのためにも明日からまたポリクリ頑張ろー。

雑感

六年 川口祐太郎

卒試もマッチングも終わり残すところは国試のみとなりました。

思い返せば六年前、先輩方に囲まれポト部に入りますと半ば強制的に言わされたのでありますが、部員に恵まれ楽しく過ごす事ができました。何かを決断することも大切ですが、決断した後その事を一生懸命頑張る事はそれ以上

に大事であると学びました。

雑感

六年 陣野 太陽

ども、ネクラでボンクラの陣野です。今まで書いてきた雑感を思い返すと、チンコやらウンコやら、そんなことばかり書いてきたように思う。だから最後は違う路線で……とは言いません。

ところで最近のトピックを一つ。先日、アメリカかどつかの大学で、人間の男女の性交中の結合部分をMRIで撮影することに性交、いや成功したとのこと。CTじゃなくMRI。このすごさがわかりますか、一、二年生諸君。まあ、今わからなくても、いずれわかるようになります。ちなみに僕は被験者として務めを果たす自信はありません。気持ちの面ではなく能力の面で。いずれにせよ、この研究はノーベル賞に近いのか、それともイグノーベル賞寄りなのか、判断が分かれるところではありそうですね。

それはさておき、僕は入学当初、小学校から高校までは部活の中の限られた世界しか見てこなかったというコンプレックスを打ち破るために、大学の六年間は唯我独尊路線を突っ走ろうと考えていた（そもそもその考え自体が間違いのおおもと）。それが皮肉にも今、大学生活で最も思い

雑感

六年 水野 貴基

知らされているのが周囲の人の有り難さ。もうここには具体的なことは書きません。ただただ、僕に関わってくれた周囲に対しては恥ずかしさと感謝の気持ちしかない（しかないことはない）。自己研鑽欲がある程度あるのはいいことだと思ふ。ただ、周囲があつてこそそのオノレだよということをお肝に銘じておきたいし、老婆心だが後輩にもそれを伝えておきたい。

大学生活を始める前に読むといい、といつて友人が勧めてくれた伊坂幸太郎の小説「砂漠」を、卒業試験が終わってから読み始めた。読んでみて友人の言わんとしたことがわかった。特に思い入れがあるのは西嶋という男。彼はどんな人ならぬことにも全力を注ぐ。大学時代というのは、一見意味のなさそうな、将来につながるのなさそうなくつだららないことに自分の持てる時間とエネルギーを注ぐことが許される期間なのではないかと思ふ。まさにそれこそが大学生の特権の一つなのじゃないかと、このタイミンで気づいてしまった。

あるイカしたオッサンがこう言つたらしい。
「○○さん、愉しみなさい。人生は、あつという間に過ぎてしまいますから。でも焦つちゃダメだ。ゆつくりと急げばいい」

今後は、座右の銘を聞かれたらこれをすらすら言えるようにしておこうと思ふ、雑感締め切り最終日。

菊田君の再三の優しさのおかげで最後の雑感も期日には間に合いそうです。

さて、いよいよ卒業目前。あとは国試を残すのみです。正直なところ、今、部活時代を思い返しても漕いでいるときの光景ばかり出てきます。もつといろいろな思い出があつたはずなのだけど：

現役時代はとにかく漕ぎ続けました。あの頃は精一杯頑張つたつもりなのだけれど、なかなか結果はついてこなかつた。

引退直前四年の夏休みにイレウスで入院し、西医体の直前でクルーを変更してもらつたこととなつたのは今でも残念でならない。あの時長大は対抗で優勝を果たしたが、今なお、嬉しさ半分、自分への情けなさ半分である。最後の年のインカレでは復帰し出場したものの、やはり終わつてみると不完全燃焼感が残つたままだつた。

引退の飲み会の席で「もう二度とオールは握らない」と豪語したものの、五年になって新人艇のクルーとして誘えてもらったことは正直嬉しかった（大井、Thanks!）。当初コックスのはずであつたが、一年上原の腰の不良により急遽西医体の一ヶ月前に漕手へポジションチェンジ。体

力はないし、筋肉はない、でも脂肪は増えているし、でどうなることかと思つたが、案外身体は覚えているもので思つたよりは漕げたような気がする。

いざ西医体に臨むにあたり、五年の今度こそは最後の大会だろうし、なんとか一年生たちにボートの楽しみを知つてもらえるような大会にしたいと思つていた。結果的に、メダルこそ取れなかつたものの、決勝に駒を進めることはできた。それまで、県漕でも普段の練習でも他の艇と並べて勝つたという経験がなかつたあの新人クルーの一年生たちに、最後はボートの面白さを少しは伝えられたのではないかと思う。だから、僕としては五年の西医体では目標を達成して、「本当の」引退ができたと思つています。

これからもまだまだ後輩たちが勝利を目指して日々漕ぎ続けるだろうけれど、いつだって応援しています。辛いこともあるだろうけれど、結局ボートは楽しいようにできていますから、安心して漕いでください。

最後に、これまで素晴らしいボート部の経験をさせてくれた先輩方や後輩たちに感謝の気持ちを述べたいと思いません。ありがとうございます。そして、いろいろなことがあつたけれど、引退の最後までボート部で頑張れたのはひとえに同級生の二人のおかげです。祐太郎、太陽、ありがとう。

平成 24 年度 長崎大学医学部漕艇部 収支報告書

2011年9月～2012年8月迄

支 出 摘 要	総 額	OB会ご援助	部員自己負担額
西医体遠征費	922,520	600,000	
お花見レガッタ	305,533	200,000	
九朝レガッタ遠征費	227,013	100,000	
九州・山口大会遠征費	147,753	200,000	
新人戦遠征費	305,533	48,373	
インカレ遠征費	209,186	400,000	
軽量級遠征費	217,738	100,000	
関西選手権遠征費	200,520	100,000	
四校戦	94,479	0	
佐賀大学交流戦	45,000	0	
艇補修用品	116,810	22,470	
coxボックス購入補助	48,300	48,300	
オールキャリアー	30,306	30,306	
平成23年度部誌発行費用	170,100	170,625	
部誌送料	27,600	27,600	
ボート協会登録費	36,000	0	
新入生勧誘費	780,000	300,000	
長崎県ボート協会、協会役員、理事特別負担金	5,000	0	
練習時交通費	335,687	0	
モーターボート運用費	97,634	0	
その他工具、部品	32,014	0	
コーチ代(契約料、遠征宿泊交通費)	514,622	514,622	
案内はがき、印刷代	75,330	0	
雑費	80,682	0	
合 計	5,025,360	2,862,296	2,163,064

※ダブルスカル購入、運搬費は購入と支払いが年度を跨いだため別会計としております。

	平成24年度	平成23年度	ダブルスカル購入につきまして
OB会費ご援助	2,862,296	3,175,042	購入費用 650,840
部員自己負担額	2,163,064	2,221,033	運搬費 53,590
漕艇部支出総額	5,025,360	5,396,075	合計 704,430

を平成23年度OB会費より全額ご援助頂いております。購入決定時期と支払い時期が年度を跨いだため別途掲載させて頂きました。

長崎大学医学部漕艇部OB会

会費請求数(会員数)		会費納入人数	会費納入率
平成20年度	130名	60名	46%
平成21年度	128名	75名	59%
平成22年度	145名	84名	58%
平成23年度	149名	85名	57%
平成24年度	153名	80名	52%

(H25. 2. 14 時点)

新役員紹介

新OB会会長	丹羽 正美 先生
新OB会副会長	田中 精一 先生
新顧問教官	山本 太郎 先生
新顧問教官代行	市川 辰樹 先生
新会計監査	山近 史郎 先生
	福井 雅士 先生の両先生

先日のOB総会で右記の体制で長崎大学医学部
漕艇部を運営することが決定いたしましたのでこ
の場をお借りしてお伝えさせていただきました。

これからもOB先生方の変わらぬご支援をよろ
しくお願いいたします。

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条 本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体

の練成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものである。

第四条 本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならび

に本会の主旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条 本会に下記の役員を置く。

(1) 会長 一名

(2) 副会長 二名

(3) 顧問 若干名

(4) 総務 若干名

(5) 会計監査 一名

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会にて互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条 役員の内任期は、一年とする。ただし、再選は妨げない。

第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって当てる。

第十一条 本会の経費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならぬ。

第十四条 本会には下記の帳簿を備える。

(1) 会則

(2) 会員名簿

(3) 会計簿

第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付 則

この会則は、昭和五十四年度四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日改正)

長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院: 勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
1 長西 靖	731-5125 731-5125	長西耳鼻咽喉科医院: 広島県広島市佐伯区五日市駅前町1-11-37 広島県広島市佐伯区五日市駅前町1-4-5-811	082-923-8122 082-923-5839		S46
2 冬野 誠三	847-0844 847-0844	なげだけ冬野クリニック: 佐賀県唐津市菜畑3660-1 佐賀県唐津市菜畑4208-57	0955-75-2220 0955-74-7378	Nabatake@star.saganet.ne.jp fuyuno@matsuronet.co.jp	S48
3 松本恵一良	593-8326 592-0003	松本内科クリニック: 大阪府堺市鳳西町1丁-92-2 大阪府高石市東羽衣4-5-4	072-264-0588 072-264-8828	kerna@violet.plala.or.jp	S49
4 峰 雅宣	854-0034 847-0849	菅整形外科病院: 諫早市小野町332 長崎市柳谷町4-13	0957-23-2388 095-847-6031		第1内科 S49
5 朝戸 末男	891-9112 891-9112	朝戸医院: 鹿児島県大島郡和泊町和泊14 鹿児島県大島郡和泊町和泊16	0997-92-1131 0997-92-2280	sasato@nisanet	S50
6 内田 隆寿	859-4825 857-0135	青州会病院: 北松浦郡田平町山内免612-4 佐世保市瀬戸口11-30	0950-57-2155		第2外科 S50
7 桜井 一枝	720-0822 721-0952	みつふじ小児科: 広島県福山市川口町2-22-11 広島県福山市曙町5丁目24-38	084-953-0307 084-954-4454	mitsufuji@fukuyamahiroshimamedor.jp	小児科 S50
8 瀬戸 信二	852-8501 852-8052	井上病院: 長崎市宝町6-12 長崎市岩屋町17-2	095-849-7288 095-857-1808	s-seto@nagasaki-u.ac.jp	第3内科 S50
9 早田 篤	850-0031 847-0859	長崎市役所中央保健センター: 長崎市桜町6-3 長崎市立岩町77-10	095-829-1153 095-862-5622		小児科 S50
10 田川 泰	852-8520 851-2128	長崎大学医薬総合研究科保健学科専攻: 長崎市坂本1-7-1 西彼杵郡長与町嬉里郷98-12	095-819-7000 095-887-1391	tagawa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1外科 S50
11 中野 文耕	853-2301 853-2301	新上五島町立若松診療所: 南松浦郡新上五島町若松郷281 南松浦郡新上五島町若松郷281	0959-46-3315 0959-46-3318	★ー/は使わない	第2外科 S50
12 丹羽 正美	852-8523 852-8052	長崎大学医学部第1薬理学教室: 長崎市坂本1-12-4 長崎市岩屋町20-28-1001	095-819-7041 095-883-6395	niwa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1薬理 S50
13 馬渡 一雄	850-0001 850-0001	まわたり内科医院: 長崎市西山2丁目9-2 長崎市西山2丁目9-2	095-822-0101 095-822-0101		第3内科 S50
14 石川 治	670-0936 670-0936	石川医院: 兵庫県姫路市古二階町135 兵庫県姫路市古二階町12	0792-23-3270 0792-23-1307		岡山大外科 S52
15 川口 昭男	852-8046	長崎市柳谷町14-27	095-847-5529		第1外科 S52
16 田中 精一	193-0832 193-0811	南多摩病院: 東京都八王子市散田町3-10-1 東京都八王子市上巻分方町246-1	042-663-0111 042-651-7640	s-tanaka@xa2.so-net.ne.jp	女子医大消化器センター S52

氏名	勤務先		勤務先住所		勤務先電話番号		E-mail address		医局 卒業年度
	勤務先 自宅	勤務先住所	勤務先住所	勤務先住所	自宅電話番号	自宅電話番号	E-mail address 1	E-mail address 2	
17 堤 健二	833-0054	つつみ脳神経外科クリニック:福岡県筑後市大地蔵敷642-7	福岡県久留米市津福本町1669-19	0942-42-1155	0942-65-8105	k-tuturni@mx2.tikine.jp			脳外科 S52
18 吉良 満夫	852-8008	浜崎外科医院:長崎市曙町3-6		095-861-6034		kira@mx0.crcmne.jp			第2外科 S54
19 出口 正巳	530-0001	医療法人正祥会カリヌクリニツク:大阪府大阪市北区梅田2-4-37 西梅田上島ビル5階		06-4797-4000					形成外科 S54
20 井上健一郎	850-0045	兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町17-46		0797-38-8077					第2内科 S55
21 江口 圭介	857-0962	江口内科ステーショソクリニツク:佐世保市白南風町1-13 JR九州佐世保ビル206号		0956-20-1178		dreguchi@hyper.ocn.ne.jp			第3内科 S55
22 成松 元治	811-0119	医療法人成松循環器科医院:福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜4丁目5-25		092-962-0022					心臓血管外科 S55
23 水谷 明正	847-0890	長崎記念病院:長崎市深堀町1-11-54		095-871-1515					第2外科 S55
24 小倉 猛	866-8533	熊本労災病院:熊本県熊本市東区竹原町1670		0965-33-4151		akimac@momo.so-net.ne.jp			形成外科 S56
25 谷川 宗生	847-0894	長崎北病院:西彼杵郡時津町元村郷800番地		096-379-7592		togura@sky.plala.or.jp			第3内科 S56
26 難波 裕幸	850-0921	医療法人春秋会 南長崎クリニツク:長崎市松が枝町3番20号		095-886-8700					原研細胞 S56
27 前原 洋二	835-0024	森整形外科:福岡県三山市瀬高町大字下庄590		0944-63-2040		namba@svnyu-kai.or.jp			S56
28 山近 史郎	850-0045	福岡県久留米市津福本町786-6 グランピアマンション津福1001		0942-37-5038		intyou-morisakei@cottonocn.or.jp			S56
29 岡田 代吉	850-0804	井上病院内科・循環器科:長崎市宝町6-12		095-844-1281		yamachika@shunkaikai.jp			第3内科 S57
30 倉富 彰秀	842-0002	医療法人輝秀会くらとみ眼科医院:佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里2435-1		095-825-3580		shiyama@mx0.crcmne.jp			×ーJLは使わない S58
31 末永 俊郎	801-0852	末永産婦人科麻酔科:福岡県北九州市門司区港町6-15		093-321-2453		soarer1956@w4.dion.ne.jp			S58
32 中崎 隆行	852-8104	福岡県北九州市門司区港町6-15		093-322-1751		posa@trainocn.ne.jp			S58
	852-8102	長崎原爆病院:長崎市茂里町3-15		095-847-1511		suetoshi@kk.ij4u.or.jp			第1外科 S58
		長崎市坂本2-18-15		095-842-2391		nakazaki@topaz.ocn.ne.jp			S58

	氏名	勤務先 自宅	勤務先病院 勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
33	永見 耕一	758-0025 758-0025	永見眼科医院:山口県萩市土原351 山口県萩市土原351	0838-22-0720	nagamih@haqnet.ne.jp	S58
34	永山 雄二	852-8523 852-8156	長崎大学医学部原研分子教室:長崎市坂本1丁目12-4 長崎市赤迫3-1-4-1-501	095-819-7173 095-856-5433	nagayama@nagasaki-u.ac.jp	第1薬理 S58
35	松永 伸彦	854-0072 854-0086	まつなが眼科:諫早市永昌町43-1 諫早市堀の内町23-2	0957-25-8866 0957-27-1333	matsuf@nocha.ocn.ne.jp	S58
36	小林 誠博	803-0831 805-0016	小林外科医院:福岡県北九州市小倉北区日明4丁目6-28 福岡県北九州市八幡東区高見2丁目10番1-601	093-561-6353 093-651-8786	qq2f9xwv9@vega.ocn.ne.jp	第1外科 S59
37	平野 友久	850-0953 850-0963	上戸町病院:長崎県上戸町4-2-40 長崎市タイヤランド3-28-6	095-879-0705 095-878-8913	hirano@kenyukai.or.jp	S59
38	糸柳 則昭	850-0842 851-2130	糸柳アレストクリニツク:長崎県新地町1-5 NMCビル4階 西彼杵郡長与町まなび野2-18-2	095-832-7000 095-887-4927	itoyanagi@nifty.com	第1外科 S60
39	日高 真	300-1152 305-0032	しんくりニツク:茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷2032-272 茨城県つくば市竹園1丁目9-5 竹園レジデンス602号室	029-875-5686 050-5824-1986	hidaka.sir@maroonplala.or.jp hidaka.sir@silkiplala.or.jp	筑波大精神科 S60
40	松岡 直樹	850-0832 850-0037	長崎内科リウマチ科病院:長崎県油屋町1-21 長崎市金屋町9-9-1301	095-822-3151 095-829-4077	nmatuoka-nag@nagasakinet.or.jp	第1内科 S60
41	高須 勝也	851-2126 859-0407	常葉会 長与病院:西彼杵郡長与町吉無田郷647 諫早市多良見町シーサイド20-133	095-883-6668 0957-43-2654		第2外科 S61
42	中里 貴浩	811-2232 811-2103	栄光病院消火器内科:福岡県糟屋郡志免町別府西3-8-15 福岡県糟屋郡宇美町四王寺坂3-19-5	092-935-0147 092-934-3648	nakazato@ymtbbid.jp trakazato@eikoh.or.jp	内科 S61
43	中山 大介	850-0003 850-0048	済生会病院婦人科:長崎市片淵2丁目5番1号 長崎県上鏡座町12-2	095-826-9236 095-848-4575		産婦人科 S61
44	青木 幹弘	856-8562	国立病院機構長崎医療センター:大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121 0957-50-0956	aoki@nmchosp.go.jp	小児科 S62
45	石井 久敬	812-0884 814-0001	石井メンタルクリニック:福岡県博多区寿町2-4-11 福岡県福岡市早良区百道浜4-17-9	092-585-3200		福岡大学精神神経科 S63
46	岡野 邦彦	852-8102 852-8117	国立病院機構長崎医療センター:大村市久原2丁目1001-1 長崎市平野町14-13セントヒルズ平野102号	095-819-7321	kuni@netnagasaki-u.ac.jp	整形外科 S63
47	朝長 道生	843-0301 843-0301	朝長医院:佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2188 佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2191	0954-43-2117 0954-43-2132	tomonaga1962@gmail.com	第2内科 S63
48	中島 寅彦	812-6582 814-0113	九州大学医学部耳鼻咽喉科:福岡県福岡市東区馬出3-1-1 福岡県福岡市城南区田島6-2-24	092-642-5668 092-871-5238		九大耳鼻科 S63

氏名	勤務先		勤務先病院:勤務先住所		勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
	自宅	自宅住所	自宅電話番号	自宅住所	自宅電話番号	自宅電話番号			
49 天野 秀明	851-1132	天野内科:長崎市小江原2-35-16	095-894-8800		095-894-8800		froatingymh@ybb.ne.jp		呼吸器科 H1
	852-8027	長崎市城山台2丁目30-3	095-864-1101		095-864-1101		chiru@ceres.dti.ne.jp		
50 金色 正広	805-8534	北九州市立八幡病院麻酔科:福岡県北九州市八幡東区西本町4-18-1	093-662-6565		093-662-6565				麻酔科 H1
	805-0061	福岡県北九州市八幡東区西本町4丁目15-23-705	093-663-3055		093-663-3055		kanairo@mars.dti.ne.jp		
51 吉川 公正	807-8555	産業医科大学病院:福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1	093-603-1611		093-751-6528		cbq47591@pop06.odn.ne.jp		脳外科 H1
	808-0016	福岡県北九州市若松区原町9-6	093-751-6528		093-751-6528				
52 旭 隆宏	811-3414	あさひ小児科クリニック:福岡県宗像市光岡5番1号	0940-34-8555		0940-34-8555				九大小児科 H2
	811-4163	福岡県宗像市自由ヶ丘1-9-7	0940-33-1492		0940-33-1492		asahi-clinic@orange.plala.or.jp		第1外科 H2
53 白藤 智之	852-8125	聖フランスコ病院:長崎市小峰町9-20	095-846-1888		095-846-1888				第1外科 H2
	852-8151	長崎市泉1-3-4	095-848-0191		095-848-0191		shirahuji@hotmail.com		
54 寺尾 保信	113-8677	東京都立駒込病院:東京都文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101		03-3823-2101				慈恵大形成外科 H2
	152-0012	東京都目黒区洗足2-13-3	03-6303-3728		03-6303-3728		y.terao@cick.jp		
55 中村 晋	813-0042	中村内科医院:福岡県福岡市東区舞松原1丁目1-6-18	092-681-7363		092-681-7363		ryo-r@mji4u.or.jp		九大第2内科 H2
	813-0031	福岡県福岡市東区青葉5-9-9	092-691-1127		092-691-1127				
56 山本 太郎	852-8523	長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野:長崎市坂本1-12-4	095-819-7869		095-819-7869		y-taro@nagasaki-u.ac.jp		熱研社会環境 H2
	853-8102	長崎市坂本1-11-15-12	090-7462-6959		090-7462-6959				
57 生田 安司									
	802-0042	福岡県北九州市小倉北区足立3-5-6	093-981-5187		093-981-5187		ikuta@oitakerbyo.jp		第1外科 H3
58 市川 辰樹	852-8501	長崎大学病院消化器内科:長崎市坂本町1-7-1	095-819-7267		095-819-7267		ichikawa@netnagasaki-u.ac.jp		第1内科 H3
59 鈴木 康弘	860-8556	熊本大学医学部附属病院:熊本県熊本市本荘1丁目1番1号	096-381-9203		096-381-9203				熊本第2内科 H3
	862-0924	熊本県熊本市常山2丁目5-74							
60 田中 邦彦	852-8523	長崎大学医学部第一薬理:長崎市坂本1丁目12-4	095-819-7043		095-819-7043		kumny-ta@netnagasaki-u.ac.jp		第1薬理 H3
	852-8035	長崎市坂本1丁目1-15 704号室	095-845-8355		095-845-8355				
61 山本 修	850-0004	山本外科医院:長崎市下西山町1-5-1F	095-823-8585		095-823-8585				第2外科 H3
	850-0015	長崎市矢ノ平2丁目2-23	095-824-4600		095-824-4600				
62 劉 中誠	857-0071	健康保険諫早総合病院:諫早市永昌町24-1	0957-22-1380		0957-22-1380		oryu@hospital-isahayasangou.jp		第1外科 H3
	851-0137	長崎市高城台2丁目11-35	095-839-2112		095-839-2112		oryu@ruby.ocn.ne.jp		
63 黒木 保	852-8102	長崎大学移植消化器外科:長崎市坂本1丁目7-1	095-819-7316		095-819-7316		hkuroki@urninac.jp		第2外科 H4
	852-8501	長崎市小江原4-18-3	095-847-8964		095-847-8964				
64 佐藤 俊一	380-8582	長野赤十字病院神経内科:長野県長野市若里5丁目22-1	026-226-4131		026-226-4131		ssato@nagano-med.jr.or.jp		信州大第3内科 H4
	380-0803	長野県長野市三輪4-2-22 グランドハイヴ三輪102号	026-232-7970		026-232-7970				

氏名	勤務先		勤務先電話番号		E-mail address 1		医局 卒業年度
	勤務先 自宅	勤務先病院・勤務先住所 自宅住所	自宅電話番号	自宅電話番号	E-mail address 2	E-mail address 2	
65 趙 成三	852-8101 852-8061	長崎大学病院神経内科:長崎市坂本1丁目7-1 長崎市滑石5丁目4-80-404	095-819-7370 095-856-3793	095-819-7370 095-856-3793	chos@netnagasaki-u.ac.jp	chos@netnagasaki-u.ac.jp	麻酔科 H4
66 津田 純	154-0014 105-0001	津田耳鼻咽喉科:東京都世田谷区新町3-20-1 ヴェルジエ桜新町206 東京都南区虎門3-14-1 2604	03-5450-7237 050-5803-8152	03-5450-7237 050-5803-8152	jun_ava_kaoru@nifty.com	jun_ava_kaoru@nifty.com	H4 形成外科
67 中野 基	857-8511 852-8154	佐世保市総合病院形成外科:佐世保市平瀬町9-3 長崎市住吉町3-9 クレーン住吉405号	0956-24-1515 095-865-7299	0956-24-1515 095-865-7299	motoinakano@hotmail.com	motoinakano@hotmail.com	H4 形成外科
68 福井 雅士	850-0045 852-8015	井上病院:長崎市宝町6-12 長崎市春木町15-55	095-844-1281 090-2510-0473	095-844-1281 090-2510-0473	fukuinadasashi@hotmail.com	fukuinadasashi@hotmail.com	H4 形成外科
69 南 恵樹	852-8501 852-8108	長崎大学病院移植・消化器外科:長崎市坂本1-7-1 長崎市川口町1-1-1213	0957-63-1145 095-814-7316	0957-63-1145 095-814-7316	shininami-gi@uminet	shininami-gi@uminet	H4 第2外科
70 竹下 浩明	852-8501 852-8133	長崎大学病院第一外科:長崎市坂本町7-1 長崎市本原町19-8	095-819-7304 095-800-2696	095-819-7304 095-800-2696	takehiro@nagasaki-u.ac.jp	takehiro@nagasaki-u.ac.jp	H5 第1外科
71 近藤 新二	852-8521 850-0001	長崎大学薬学部薬物治療学:長崎市文教町1-14 長崎市西山4丁目511-301	095-819-2448 095-844-7177	095-819-2448 095-844-7177	koridos@nagasaki-u.ac.jp	koridos@nagasaki-u.ac.jp	H6 形成外科
72 斎藤 将隆	811-3423 805-0016	峰須賀病院:福岡県宗像市野坂野坂2650 福岡県北九州市八幡東区高見町1-2-25-209	0940-36-3636 093-653-2246	0940-36-3636 093-653-2246	sakaue@anes.meddosaka-u.ac.jp	sakaue@anes.meddosaka-u.ac.jp	H6 麻酔科
73 阪上 学	662-0971	さかうえクリニック:兵庫県西宮和上町1-16 日本生命西宮ビル1F	0798-38-8388	0798-38-8388	sakaue@ffji4uor.jp	sakaue@ffji4uor.jp	H6 大阪大麻酔科
74 松尾 敏明	890-0007 890-0055	ナカノ在宅医療クリニック:鹿児島県鹿児島市伊敷台6-27-10 鹿児島県鹿児島市上荒田町34-1 プレミスト上荒田1001号	099-218-3300 080-5283-6203	099-218-3300 080-5283-6203	matsuuo@nakanozaitakuor.jp	matsuuo@nakanozaitakuor.jp	H6 九大心臓血管外科
75 岩井 敏郎	806-8501 814-0104	九州厚生年金病院:福岡県北九州市八幡西区岸の浦1-8-1 福岡県福岡市城南区別府7丁目5-35-1005	093-641-5111 092-821-7225	093-641-5111 092-821-7225			H7 耳鼻科
76 宗 英吾	852-8117 852-8117	宗耳鼻咽喉科クリニック:長崎市平野町10-2-301 長崎市平野町10-2-301	095-844-5655 095-844-5655	095-844-5655 095-844-5655			H7 耳鼻科
77 中橋 了太	852-8501 852-8027	僻地医療再生支援教育機構:長崎市坂本1-7-1 長崎市城山台2-10-6	095-819-7773 090-7986-2728	095-819-7773 090-7986-2728	nakaake@netnagasaki-u.ac.jp	nakaake@netnagasaki-u.ac.jp	H7 第1薬理
78 藤本 武士	857-8511	佐世保市立総合病院:佐世保市平瀬町9-3	0956-24-1515	0956-24-1515	tfujimoto@hospitaltagawa.fukuoka.jp	tfujimoto@hospitaltagawa.fukuoka.jp	H7 第1内科
79 安田恵多良	560-0021 560-0045	やすだクリニック:大阪府豊中市本町2-4-28 大阪府豊中市2-1-7-1	06-6846-2222 06-6531-3133	06-6846-2222 06-6531-3133	yasuda-clinic@janooon.ne.jp	yasuda-clinic@janooon.ne.jp	H7 大阪大脳外科
80 古賀 洋安	830-0011	久留米大学病院麻酔科:福岡県久留米市旭町67番地	0942-35-3311	0942-35-3311	coffee35@mx6.tikine.jp	coffee35@mx6.tikine.jp	H8 久留米大小児科

氏名	勤務先		勤務先病院:勤務先住所		勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
	勤務先 自宅	勤務先住所	勤務先住所	勤務先住所			
81 城田 利彦	089-2622	広尾町国民健康保険病院内科:北海道広尾町公園通南4-1			090-9072-8467	toshishirouta@hotmail.co.jp	九大心臓血管外科 H8
82 関 徹	272-0813 140-0002	静和会中山病院:千葉市川市中山2-10-2 東京都品川区東品川4-10-18-1507			047-334-3480 03-3450-3813	QWP07174@nifty.ne.jp tr-seki@saa2.so-net.ne.jp	東北大精神科 H8
83 武野 正義	852-8102 851-2127	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科循環病態制御内科:長崎市坂本1丁目7-1 西彼杵郡長与町高田郷2098-3			095-819-7288	mtakeno@netnagasaku-u.ac.jp	第3内科 H8
84 福田 顕三	838-0141 830-0047	嶋田病院同医院外科:福岡県小郡市小郡217-1 福岡県久留米市津福本町6-47			0942-72-2236 0942-31-5715		第2外科 H8
85 山里 昌司	825-8567 802-0971	小波瀬病院:福岡県京都郡苅田町新津字1598 福岡県北九州市小倉南区守垣本町2-5-20-805			0930-24-5211		第3内科 H8
86 岡 真一郎	870-0857 870-0875	大分公立病院:大分県大分市明礮四組 大分県大分市青葉台1丁目1-5			097-543-1177 097-507-8947		第2内科 H9
87 岡田和一郎	440-8510 440-0033	国立療養所豊橋医療センター:愛知県豊橋市飯村町字高山11番地 愛知県豊橋市東岩田4丁目5-1Aの301			0532-62-0301 090-1625-8528		第2内科 H9
88 牟田口 滋	839-0801 839-0862	古賀病院21:福岡県久留米市宮ノ陣3丁目3番8号 福岡県久留米市野中町1185-1 アメニエーハイツ杏栄館202			0942-38-3333 0942-80-4633		九大整形外科 H9
89 大石 正雄	904-0011 904-2165	中部徳州会病院:沖縄県沖縄市照屋3-20-1 沖縄県沖縄市宮里3-25-47-301			098-937-1110 098-989-3727	shiemuta@hyabbiq.jp moishi999@hotmail.com	形成外科 H10
90 古賀 聖士	852-8501 852-8102	長崎大学病院循環器内科:長崎市坂本1丁目7-1 長崎市坂本1丁目4-5-207			095-819-7288 095-849-6085	kogasez@gmail.com	第2内科 H10
91 崎元 暢	173-8610 108-0072	日本大学医学部:東京都板橋区大谷口上町30-1 東京都港区白金2-7-17-1102			03-3972-8111 03-3443-3313	torusak@med.nihon-u.ac.jp toruotto@mrwebiglobe.ne.jp	日大眼科 H10
92 山崎 励至	857-0134 857-0043	長崎労災病院:佐世保市瀬戸越2-12-5 佐世保市天満町2-9-301			0956-49-2191	reishi@hospital.sasebo.nagasaki.jp	原研内科 H10
93 高橋 優二	852-8501 852-8151	長崎大学病院へき地病院再生支援教育機構:長崎市坂本1丁目7番1号 長崎市泉1-17-3			095-848-2841	yujika@pop16.odn.ne.jp	H11
94 谷川 治	815-0071	福岡県福岡市南区平和1-30-13			090-4584-1027	os-tanikawa@a-kensei.jp	H11
95 牧野 淳		Department of Medicine, Interfaith Medical Center 110-06 72nd Ave Apt 1A, Forest Hills, New York 11375				jummakino@hotmail.co.jp	H11
96 宮崎 浩充	990-0044	宮城県仙台市青葉区上杉5-8-18-204			022-264-1332	hmiya1104@yahoo.co.jp	耳鼻科 H11

	氏名	勤務先 自宅	勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
97	吉野 俊平	820-8505 820-0002	福岡飯塚病院:福岡県飯塚市芳雄町3-83 福岡県飯塚市川島1-7-1パークサイド立岩601	0948-22-3800 0948-23-8590		syoshn26@aol.com	飯塚病院 H11
98	澁谷 正樹	753-0078	済生会山口病院内科:山口県山口市緑町2-11	083-901-6111		bc8m-shy@asahi-net.or.jp	山口大第2内科 H12
99	土井 晋平	507-8511	多治見市民病院内科:岐阜県多治見市前畑町3丁目43番地	0572-22-5211			神戸大第2内科 H12
100	福田 義文	671-1691 651-2274	損歩川病院:兵庫県たつの市埴保川町半田703-1 神戸市西区竹の台4-21-5	0791-72-3050 090-4578-6523 078-991-5883		a807445@nocom.ne.jp	H12
101	程野 茂樹	799-3111	愛媛県伊予市下吾川676-1	089-983-3504 089-964-5111		hodonoo@jds.sor-net.ne.jp	愛媛大麻酔科 H12
102	松永 祥志	857-0056	佐世保市立総合病院麻酔科:佐世保市平瀬町9-3	0956-24-1515			脳外科 H12
103	及川 将弘	852-8102 810-0014	長崎大学病院第一外科:長崎市坂本1-7-1 福岡県福岡市中央区平尾5-3-28-203	095-819-7304 090-1167-8282		oimasa@iris.dtime.jp	麻酔科 H13
104	森 創	113-8421 272-0033	順天堂大学公衆衛生学教室:東京都文京区本郷2-1-1 千葉県市川市市川南4-1-5	03-3815-8411 099-267-1455		morihajime@nhlw.go.jp neomoris@k2.dion.ne.jp	H13
105	ウイケンロウ	300-1296 300-1236	牛久愛和総合病院:茨城県牛久市猪子町896 茨城県牛久市田宮町3-11-9フラッツだけ201号	029-873-3111 090-9408-8805			心臓血管外科 H13
106	松本 周平	852-8102 852-8041	長崎大学病院麻酔科:長崎市坂本1-7-1 長崎市清水町3-23-506	095-819-7370 095-843-2536			H13
107	諸藤 陽一	856-8562 807-0853	国立病院機構長崎医療センター:大村市久原2丁目1001-1 福岡県北九州市八幡西区鷹見台1-2-23 百々孝夫方	0975-62-3121 093-603-2218			H13
108	蓬萊 彰士	856-8562 852-8132	国立病院機構長崎医療センター:大村市久原2丁目1001-1 長崎市扇町23-4-201	095-819-7041 090-1369-5720			精神神経科 H14
109	青山 英和	742-0032	山口県柳井市古開作20-1-13				山口大第2内科 H14
110	西條 知見	771-1220	西條耳鼻咽喉科:徳島県坂野郡藍住町東中富字船傍示22-7	088-692-8711 090-6890-8750		t-saijo@umin.ac.jp	第2内科 H14
111	高木 理博	852-8501 852-8133	長崎大学病院熱研内科:長崎市坂本1丁目7-1 長崎市本原24-2	095-819-7384		rhakul1@nuebiglobe.ne.jp	熱研内科 H14
112	田邊 孝大	130-0022 130-0022	都立墨東病院救命センター:東京都墨田区江東橋4丁目23-15 東京都墨田区江東橋4丁目13-25 都立墨東病院医師公舎322号	03-3633-6155 090-9604-7079		tanestht@yahoo.co.jp	麻酔科 H14

氏名	勤務先		勤務先病院:勤務先住所		勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
	勤務先 自宅	勤務先住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	勤務先住所	自宅電話番号				
113	渡邊 庸平	989-3126	宮城県立こども病院	宮城県仙台市青葉区落合4丁目3-17	022-391-5118		nabe-76@eagle.ocn.ne.jp		小児科 H14
114	崎元 晋	565-0871	大阪大学眼科学教室	大阪府吹田市山田丘2-2			skmtssm7923@yahoo.co.jp		阪大眼科 H15
115	猪狩 圭介	849-0915	佐賀県佐賀市兵庫町	大事藤本43-1ゾロムナード夢咲南棟203					H16
116	近藤 学	753-8519	総合病院	山口赤十字病院内科:山口県山口市八幡馬場53-1	083-923-0111		golgo0307@hotmail.com		H16
		755-0049		山口県宇部市西琴芝2丁目2-5-302	0836-35-2524				H16
117	田浦 康明	852-8502	長崎大学病院腫瘍外科	長崎市坂本1丁目7-1	078-732-6961				H16
		852-8002		長崎市富士見町16-7-301					H16
118	豊田 啓介	852-8501	長崎大学病院脳神経外科	長崎市坂本1丁目7番1号	095-819-7375		enzokun7@yahoo.co.jp		H16
		859-3614		東彼杵郡川棚町中組郷1511 ゴールドスター201号	090-7150-6905				H16
119	山口 仁平	852-8501	長崎大学病院耳鼻科	長崎市坂本1丁目7番1号			yrimpei@hotmail.com		H16
		852-8134		長崎市大橋町23-7サンパーク文教通リ603					H16
120	吉武 記一	754-0002	山口総合健診センター	山口県山口市小群下郷1773-1	083-972-4325				H16
		747-0843		山口県防府市東仁井合町23-33	0835-28-7017		kiichi_12_23@yahoo.co.jp		H16
121	高田 潤	545-8586	大阪市立大学病院整形外科	大阪府大阪市阿倍野区旭町1-5-7					H17
		545-0051		大阪府大阪市阿倍野区旭町1-3-3 アペリージャ408号	06-6320-4075		a105105@ycho.or.jp		H17
122	荒木孝太郎		不明						H18
123	夏田 孔史	852-8102	長崎大学移植消化器外科	長崎市坂本1丁目7-1	090-7152-2717		kotaro002@hotmail.com		H18
124	冬野 誠也						no_rain_no_rainbow1018@yahoo.co.jp		H18
		801-0833	福岡県北九州市門司区清滝1丁目6-8サンパーク清滝II 102号室		090-2514-6891		seijet@jcom.home.ne.jp		H18
125	山道 忍	857-1195	佐世保中央病院消化器内科	佐世保市大和町15	095-847-1511				H18
		851-1131		長崎市上浦町112	095-841-0756		bwspon147@ybb.ne.jp		H18
126	大場 修治	901-0493	南都徳州会病院	沖縄県島尻郡八重瀬町字外間171番地1	098-998-3221		s301027r@hotmail.co.jp		H19
127	茅田 洋之	653-0013	神戸市医療センター西市民病院	兵庫県神戸市長田区一番町2丁目4番地	078-576-5251				H19
		652-0803		兵庫県神戸市兵庫区大関通5丁目2-33-202	090-5285-5253		inazawachainsaw1982@yahoo.co.jp		H19
128	末下 雅也	855-0861	長崎県島原病院	島原市下川尻町7895番地	0957-63-1145		apple47@thermis.ocn.ne.jp		H19
		853-0205		島原市新湊1丁目32-2	090-9599-0007				H19

	氏名	勤務先 自宅	勤務先病院:勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
129	西山 光郎	745-0522	徳山中央病院:山口県下関市周南町孝田町1-1	0834-28-4411		H19
130	原口 雅史	854-8501 852-8117	健康保険諫早総合病院:諫早市永昌東町24-1 長崎市平野町10-9-202	0957-22-1380 090-8761-3734		消化器内科 H19
131	松浦 良樹	880-0041 880-0032	古賀総合病院:宮崎県宮崎市池内町数太木1749-1 宮崎県宮崎市霧島2丁目135-102	0985-33-9819		H19
132	福島 真典	853-0031 853-0031	五島中央病院:五島市吉久木町205番地 五島市吉久木町205番地職員公舎B棟305号室	095-819-7200 090-4283-4897	ma_fu_numrc@yahoo.co.jp	H20
133	村田 慎一	598-0045	大阪府泉佐野市松原2-5-58エフエーフロントマンション605号	080-5609-9432		H20
134	日野 直之	857-1165 870-0028	長崎県佐世保中央病院:佐世保市大和町15 大分県大分市新町12-11パークレジデンス新町1102号	0956-33-7151 090-4516-0301	nao_hino_0921@yahoo.co.jp	H21
135	長 哲太郎	590-8505 555-0024	耳原総合病院:大阪府堺市堺区協和町4-465 大阪府大阪市西淀川区野里1-12-24-601	072-241-0501 090-69899-8944	tetsutarou.cho@gmail.com	H21
136	山本 悠造	815-8555	福岡赤十字病院呼吸器内科:福岡県福岡市南区大橋3丁目1-1	092-521-1211		H21
137	笠原 優人	651-1145 651-1112	社会保険神戸中央病院:兵庫県神戸市北区惣山町2丁目1番1 兵庫県神戸市北区鈴蘭台東町9丁目13番23 サイコー ト鈴蘭台201号	078-594-2211 078-958-5077		H21
138	江頭 崇	852-8501 852-0846	長崎大学病院:長崎市坂本1丁目7番1号 長崎市柳谷町12-13			H21
139	小松 直広	854-8501 840-0201	健康保険諫早総合病院:諫早市永昌東町24-1 佐賀県佐賀市大和町大字尼寺1600-26 アイリス大和802号室	052-832-1121		H21
140	高橋 一臣	466-8650 466-0815	名古屋第二赤十字病院:愛知県名古屋市中昭和区妙見町2番地9 愛知県名古屋市中昭和区山手通1-11ツイン・ト山手501号		onionionri1031@gmail.com	H21
141	梅田 雅孝	854-8501 852-8117	諫早総合病院内科:諫早市永昌東町24-1 長崎市平野町14-2-305	095-819-7200 090-7388-2910	masatakaka0807@m2.gyaone.jp	H22
142	古賀 俊充		不明			H22
143	友延 寛	812-8582 815-0083	九州大学病院産婦人科:福岡県福岡市東区馬出3-1-1 福岡県福岡市南区高宮2-11-26-301	092-641-1151 090-2964-7335	tomonobe@live.jp	H22
144	濱口 陽	852-8501 852-8113	長崎大学病院:長崎市坂本1-7-1 長崎市上野町19-9-501	095-819-7200 090-2969-3554	hamahana0216@softbank.jp	H22

	氏名	勤務先 自宅	勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
				自宅電話番号				
145	松岡 若利	815-8588 815-0074	公立学校共済組合九州中央病院:福岡県福岡市南区塩原3丁目23番1号 福岡県福岡市南区寺塚1丁目6番5号 パロマゾイラ寺塚105号	092-541-4936	090-5725-8729			
146	岩津 伸一	857-8511 852-8102	佐世保市立総合病院:佐世保市平瀬町9-3 長崎市坂本1-4-5-402					H22
147	上木 智博	850-0953 850-8102	上戸町病院:長崎市上戸町4丁目2-20 長崎市坂本1-13-53-203					
148	大橋 和明	850-8501	福岡県北九州市小倉南区湯川5丁目7-7-505	090-2501-9041				
149	三反田拓志	540-0006	大阪医療センター:大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14	090-5928-4023	ling_dome2ne440zei:-to_ppa.3@docommo.ne.jp			
150	北村 健二	540-0006 854-8501	大阪府大阪市中央区法円坂2-1-7-3 大阪医療センター公務員宿舍134 健康保険藤早総合病院:藤早市永昌東町2-4-1	090-9799-6855	tand-san@ezweb.ne.jp			
151	東 祥嗣	852-8501	長崎大学病院医療教育開発センター:長崎市坂本1-7-1	090-8227-1239	khealthv-second0412@ezweb.ne.jp			
152	松浪 周平			090-7448-4206				
153	中原 知之	558-0056 856-8562 856-0835	大阪府大阪市住吉区万代東3-1-50 大村医療センター:大村市久原2-1001-1 大村市久原2-1001-1 研修医宿舎松館101号室	090-8288-9360	jack-pot.xxx:top-kcaj@ezweb.ne.jp			
	物故者		神田 源太 小村三代治 村山 晋 松尾 圭一 今里 雅之 山本 經之 富海 五郎	090-1948-9392	tom.0131@ezweb.ne.jp			

退会者 矢次 登

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿

氏名	自宅	自宅電話番号	備考・卒業年度
井上 満治	852-8052 長崎市岩屋町17-1	095-856-2711	開業・S19
片伯部 貢	852-8132 長崎市扇町2-22	095-844-3034	開業・S37
佐藤 安雄	850-0901 長崎市本石灰町5-11	095-822-0321	開業・日大
鈴谷 悦堂	852-8033 長崎市緑ヶ丘町1-4	095-846-2052	開業・S19
高木 聡一郎	850-0801 長崎市八幡町4-18	095-824-0590	開業・S20
石橋 盟士	852-8155 長崎市中園町22-17	095-845-6181	開業・S30
大須賀 浩	852-8002 長崎市弁天町17-1	095-861-3576	開業・S30

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿

氏名	勤務先		勤務先電話番号	役職
	自宅	自宅電話番号		
須山 弘文	850-0803	玉木女子短大:長崎市風頭1-13	095-822-8694	顧問
	852-8065	長崎市横尾二丁目4-5	095-856-1321	前法医学教授
尾崎 正若	861-1102	熊本県菊池郡西合志町須屋2740-30	096-242-2761	顧問
				前第二薬理教授
山口 三次	852-8145	長崎市昭和町二丁目5-14	095-844-5272	顧問
				前県ボート協会会長
吉田 恒雄	850-0811	長崎市矢の平町2-19-26	095-825-4979	顧問
				県ボート協会会長
井上 健一郎	850-0045	井上病院:長崎市宝町8-9	095-844-1281	事務局担当
	852-8102	長崎市坂本一丁目2-5	095-846-2218	
西條 知見	852-8501	長崎大学病院第二内科		
		: 長崎市坂本1丁目7番1号	095-819-7274	会計

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿

履修番号	学籍番号	氏名	ふりがな	出身校	メールアドレス (携帯)	入学年度
305123	20513123	中原 知之	なかはら ともゆき	開邦	tom.0131@ezweb.ne.jp	H18
306015	20613015	北村 健二	きたむら けんじ	佐賀西	k.health-second0412@ezweb.ne.jp	H18
306114	20613114	東 祥嗣	ひがし しょうご	青雲	wishingfortheday0415@ezweb.ne.jp	H18
306119	20613119	藤田 拓郎	ふじた たくろう	長崎北陽台	flowershop-fuzitaku-55go0430@q.vodafone.ne.jp	H18
306127	20613127	松浪 周平	まつなみ しゅうへい	小倉	jack-pot.49010.xxx@ezweb.ne.jp	H18
307024	20713024	川口祐太郎	かわぐち ゆうたろう	田川	The_Zombies.0727@softbank.ne.jp	H19
307038	20713038	陣野 太陽	じんの たいよう	長崎西	jinpo@i.softbank.jp	H19
307132	20713132	水野 貴基	みずの たかのり	春日部	tarao-ikura.0429@docomo.ne.jp	H19
308014	20813014	大井隆之介	おおい りゅうのすけ	長崎北陽台	the-12st-victorist77@ezweb.ne.jp	H20
308019	20813019	粕谷 泰祐	かすや たいすけ	明和	pouring-water.1354@swan.ocn.ne.jp	H20
308028	20813028	上瀧 善邦	こうたき よしくに	明善	az_u-re.m-o-n.44c.j92@ezweb.ne.jp	H20
308108	20813108	丹下 寛也	たんげ ひろや	愛光	num.tang@live.com	H20
308114	20813114	朝野 寛視	とも の ひろみ	久留米附設	baa000403008@sgr.bbiq.jp	H20
308134	20813134	三浦 正秀	みつま まさひで	福岡嘉穂	gu-tara_sherry0723@docomo.ne.jp	H20
309024	20913024	嶋打 周龍	かもうち あまね	ラ・サール	glimmer37@q.vodafone.ne.jp	H21
309026	20913026	菊田 龍一	きくた りゅう	穎明館	ryu-tennis.love@docomo.ne.jp	H21
309047	20913047	竹田 昌士	たけだ かずひろ	甲陽	p-o-oh@ezweb.ne.jp	H21
309101	20913101	田尻 健治	たじり まさし	福岡大学附属大濠	hataesontyou@ezweb.ne.jp	H21
20110005	20110005	有賀 英史	あるが けんじ	愛光	ktmstar-911@docomo.ne.jp	H22
20110007	20110007	池田 雄史	いけだ へいし	高岡	a-c7373.eee9-11.3333@docomo.ne.jp	H22
20110030	20110030	川口 晋平	かわぐち しんぺい	長崎日大	mow@i.softbank.jp	H22
20110047	20110047	佐藤 直樹	さとう しんじ	高槻	summer-of-love.1967@ezweb.ne.jp	H22
20110118	20110118	二宮 龍一	にのみや りゅういち	青雲	n-aikotoba238bluetooth-h.m.k.u@docomo.ne.jp	H22
20110131	20110131	福田 慶一	ふくだ けい	日本大学習志野	os.araragi.bros-yk.kisaragi@docomo.ne.jp	H22
20111002	20111002	新垣 慶人	あらがき よしと	愛光	jalanajib@docomo.ne.jp	H23
20111008	20111008	上原 裕規	うえはら ゆうき	ラ・サール	flying-pig-spirit@docomo.ne.jp	H23
20111034	20111034	児嶋 知仁	こじま ともひと	大濠	faster_than_a_bullet_0307@docomo.ne.jp	H23
20111071	20111071	西原 聖仁	にしはら しょうじ	西大和学園	green_twilight@softbank.ne.jp	H23
20111072	20111072	西原 新也	にしはら しんや	久留米附設	deryck.w.0..core_respectsum@ezweb.ne.jp	H23
20111102	20111102	水野 弘士	みずの こうし	済美平成	1dd27e3fd78epdd@softbank.ne.jp	H23
20111105	20111105	牟田 龍史	むた たつひと	大濠	inside-beach@softbank.ne.jp	H23
20112108	20112108	山成 康洋	やまなり やすひろ	宮崎第一	dwyane_ysl5@i.softbank.jp	H24
20112052	20112052	谷歩 康一	たにほ こういち	高岡	kltt2h9j@i.softbank.jp	H24
20112018	20112018	尾崎 昌士	おざき まさし	済々	one.fr-lfe.aik-70v@docomo.ne.jp	H24

長崎大学医学漕艇部 公式ホームページ

since 2000

http://wiki.livedoor.jp/chodai_rowing/

～ Google で「長崎大学医学漕艇部」で検索できます～

ボート部の紹介、試合の記録、イベント情報、
部員ブログなどを載せています。

OB 専用掲示板もありますので卒業生同士の連絡に
もご利用ください。

OB 専用掲示板 URL



<http://6523.teacup.com/tauring/bbs>

編 集 後 記

今回は丹羽正美先生退官記念号ということもあり、漕魂は例年よりもボリュームが多いものとなりましたが後輩の池田や大同印刷会社の毎熊さんなどのご協力によりなんとか無事発刊することができました。

編集者代表 菊田 龍